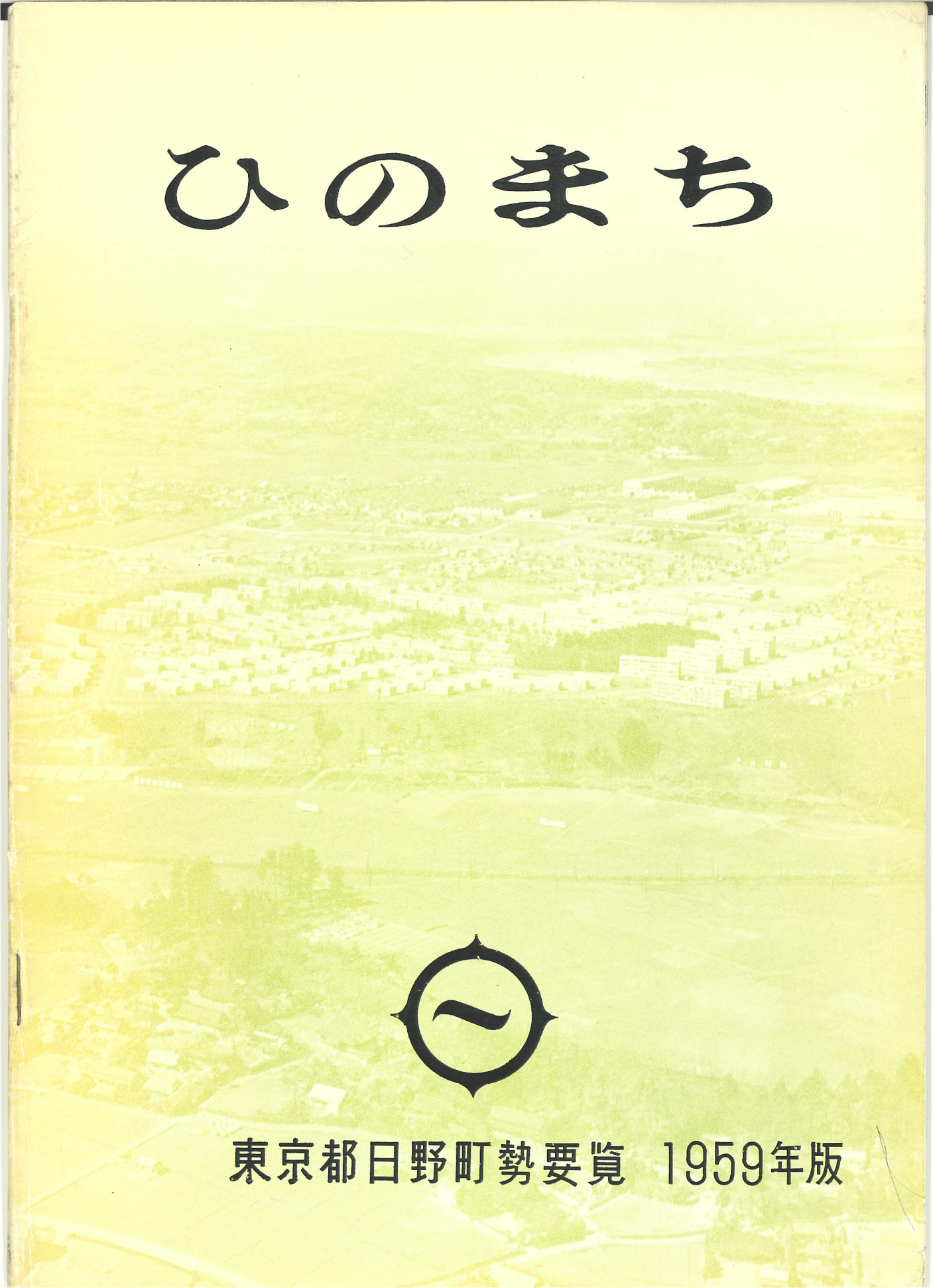
ひのまち



東京都日野町勢要覧　1959年版

殿

町勢要覧の贈呈

このたび、昭和 34 年版の町勢要覧を発行いたしました、

これが何等かの御参考になりますれば幸甚に存じます。

東京都日野町長　古　谷　太　郎

表紙は日野台地の航空写真に町の章を配したものです。この町章は日野の日の字を丸くして炎の如く燃さかり発展して行く様を象徴したものであります。

沿　革

原史時代、古代（1,000 年以前）　最初に日野に人が住み始めたのは、日野台の周縁に近い涯の上や、多摩丘陵裾の段丘の各所であります。日野の東光寺上、豊田駅の附近、堀之内の原村、谷戸平山、南平、百草、倉沢などからは石斧、石鏃、石皿、素焼の皿、壺などが出土され又住居址も埋まっているとされております。これらは、この場所には相当永い間、人が住んでいたことを物語っているものであります。

この石器、土器時代に於ける人は、鳥獣を山や野に狩り、木の葉や実、草の根などをたべて狩猟採集の生活をしておりました。その後、永い永い間かかって漸次田を作り米を穫る様になったのであります。

古墳文化時代（凡そ 1,200 年～1,600 年以前）　日野の東光寺上七ツ塚地域には古墳群の七ツの塚があり、また浅川北岸大名淵の西方に七基ほどの古墳がありました。これらは縄文式文化時代、弥生式文化時代に続いて氏族が集団生活をしていたことを示す遺跡であります。

古墳の中からは、鉄製の太刀、刀子、鏃などが出土されました。当時その地に集団生活をしていた氏族の首長を埋葬して築いたものと考えられます。後次第に低地に下って、農耕を営むようになり現在の部落をつくる起源となったものであります。

日野と云う名称の起り　古い昔、日野台辺りの地を多摩郡石津郷飛火野と呼びました。この飛火とはのろし（烽火）の事で、国府が置かれた時代に烽火台が設けられたのであります。和銅年間（文武天皇 1,250 年前）諸国の地名は嘉字二つを選んで名づけよとあったので、これが火野となりのちに日野と改めたと云われております。

西党日奉氏　平安時代の終り頃、武士が興り武蔵七党等が並び起りました。西党日奉氏は日野東光寺七ツ塚の地に居館を築き、多摩川、浅川、並びに秋川ぞいにあった一族二十数団を指図しておりました。鎌倉時代に此の地方は背後の地として、重要視されていましたが、元の侍所別当和田義盛が北条氏の策謀を潰り兵を挙げたので西党及び横山党の面々も之に参同した結果、由井ヶ浜の浪と散ってしまったのであります。

室町時代（戦国の世）　小田原、北条の部将がこの地を治めました。それは平野豊後、福島右近竹間加賀入道などの連名による山林保護の趣旨の触れ書が現在なおのこっております。

江戸時代　日野は甲州街道の宿駅となり、幕府の直轄領として代官がこの地を治めました。

現　　代　明治になって、行政上の区域や、統轄が数度変りましたが、日野は明治 11 年 11 月、多摩郡を分割して東西南北の四郡となるに及んで南多摩郡下に入り日野宿と称されました。その後明治 17 年 7 月に日野宿と宮、上田、万願寺、新井、石田を合せて戸長役場を置きました。明治 26 年 4

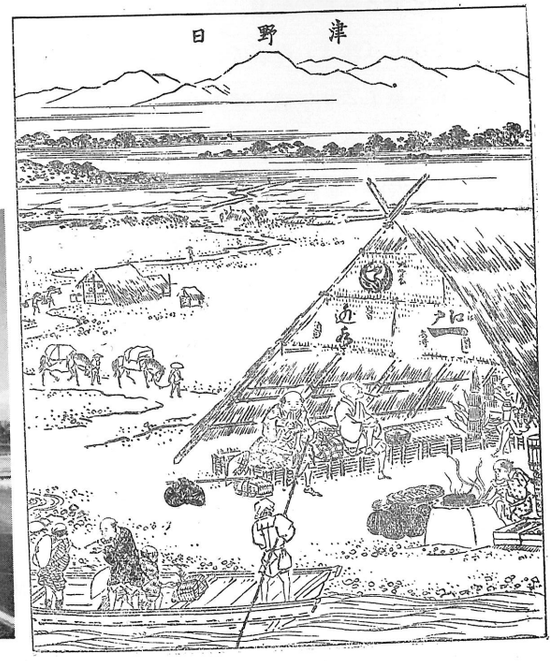
月には三多摩郡が神奈川県より東京府に移管されました。当時日野宿は分離して日野と称し、他の6ヶ村は豊田を併せて桑田村と称しました。越えて明治34年4月1日桑田村を合併して日野町を形成したのであります。

昭和33年2月1日に旧日野町は町村合併促進法の趣旨にそい、なお現実に即した形で隣接の七生村と合併したものであります。この七生村は元小宮領、由井領、日野領に分離し甲州街道日野宿寄場44ヶ村の内にありましたが、明治17年南平村外7ヶ村（高幡、三沢、落川、程久保、平山豊田、）が連合して組合役場を作りました。その後明治22年町村制施行に際し高幡、南平、平山、程久保、三沢、落川、百草の7ヶ村と飛地を合せて七生村となりました。明治26年東京府に移管され、昭和33年2月1日に日野町と合併し現在に至ったものであります。

権威のあつた御用渡し

多摩川を控かえた日野宿は、東海道六郷の渡しと並んでこの川に二つしかない格式のある「ご用渡し」を所有していました。それは徳川中期以来幕府の命により五間以上の馬船二艘、人間用一艘を常に備えその上、そでがらみ、突棒等の捕物道具をそろえなければならない要所でありました。今でも公定船賃を書いた高札が遺って当時を物語っております。その頃は多摩川の増水ともなれば川どめとなり日野宿は5日も6日も旅人でごったがえしておりました。現在では中央線の電軍が間断なく鉄橋を渡り、それより500M下流には日野橋があって甲州街道の要所となっております。

現　在　の　日　野　橋



徳川中期より200年以上続いた渡船場風景

概　況

位　置

日野町は東経139度22分から139度26分、北緯35度39分から35度42分に位し、東京の西南約40KMの地にあります。

地　勢

地形を分けると西北部の台地、東北部の平地、南部を東西に走る標高約170M位の丘陵の三つから成っております。又源を山梨県東山梨郡萩原山に発し奥多摩湖を経て秋川を合せている多摩川が昭島市、立川市、国立町、府中市を境として流れ、又町の中央を東西に小仏山から流れる浅川があって、水の便が非常に良く水田耕作と景観を保っております。

地　質

地質学上第3紀と呼ばれる時代には、八王子市と青梅市を結ぶ陵線まで海が入りこんでおりました。これはこの地方の古墳や貝塚或は鑿井によって、貝類や海の砂が発掘されることから容易に知ることが出来ます。これが長い間、多摩川の洪水等によって関東の山地から土砂を運び三角州を次ぎ次ぎに作り、又その後の富士、箱根、浅間等の大噴火にてローム層が出来、この上に埴土が出来上りました。即ち上層が壌土、次にローム層、砂礫層となっているのであります。

気　象　気　温

区分＼月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	平　均
最高平均	9.8	9.8	12.4	18.4	22.2	24.9	28.8	30.8	21.4	20.1	16.4	11.7	19.36
最低平均	−3.4	2.7	1.2	6.4	11.1	16.3	20.5	21.2	18.1	11.2	4.7	−1.8	12.56
平　均	3.5	4.2	10.4	14.2	18.2	21.1	24.6	26.5	22.8	17.3	11.6	6.4	15.07

昭和20年〜昭和32年の13ヶ年の平均
平均は午前9時の昭和28年〜昭和32年の5ヶ年平均

降　雨　量

区分＼月別		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
降雨量	最高	9	16	20	25	26	40	42	49	52	53	18	9	359
	最低	3	4	14	17	16	26	20	24	24	21	13	3	185
	平均	6	10	17	21	21	33	31	36.5	38	37	15.5	4.6	270.6
曇天日数		5	4	9	8	11	7	11	13	9	11	7	7	102

◎ 過去13ヶ年の資料に依る　　1日平均雲量7以上を曇天とする

降　　霜

初霜	最早降霜日	2021 年 10 月 29 日	終霜	最早降霜日	25 年 3 月 25 日	降霜期間	最　長　182日間
	最遅降霜日	28 年 11 月 22 日		最遅降霜日	28 年 5 月 3 日		最　短　135日間
	平均降霜日	11 月 11 日		平均降霜日	4 月 15 日		平　均　155日

降　　雪

初雪	最早降雪日	29年11月12日	終雪	最早降雪日	25年3月25日	降霜期間	最長期間 134日間	積雪	平　均
	最遅降雪日	22年2月8日		最遅降雪日	28年5月3日		最短期間 21日間		10cm
	平均降霜日	12月27日		平均降雪日	4月15日				

面　　積

区分＼地目		宅　地	田	畑	池　沼	山　林	原野	雑種地	道路	鉄道地	その他	計
面積	反	2,746	4,054	6,179	3	4,470	210	191	556	79	9,039	27,527
	KM²	2.72	4.02	6.15	0.003	4.45	0.20	0.19	0.53	0.07	9.03	27.3
比　%		10	15	22	—	16	1	1	2	—	33	100%

山

山　名	位　置	標　高
多摩丘陵	大字百草　大字程久保　大字平山	150 ～ 200M

川

河川名	川　巾	流路延長	流域面積	源
多摩川	最大 600M 最小 111M　平均 355M	7.0K	2.2KM²	山梨県東山梨郡秩原山
浅川	最大 160M 最小 130M　平均 100M	6.5K	1.1KM²	東京都八王子市小仏

全体としての概略

日野町は東京都の西南、南多摩郡の東北部に位し町の中央部に国道と国鉄が貫き、南部には東西に京王電鉄が通って、これをバス路線で到る処に結んでおります。地勢も自然的条件に優れる処が非常に多く、これがため台地には工業及住宅が栄え多摩川、浅川は水利が良いので水田が開け高度化した農業が発達しております。南側を東西に走る丘陵は都立自然丘陵公園の指定を受け動物公園、不動尊、平山城跡公園、百草園などがあり景色よく四季を通じて訪ずれ来る客も多く、東京のレスト・タウンとして栄えつゝあります。

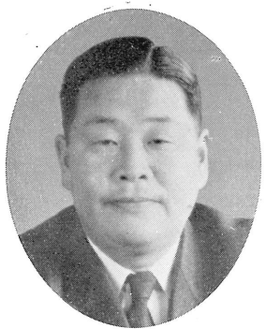
町　長
古　谷　太　郎

助　役
天　野　　敬

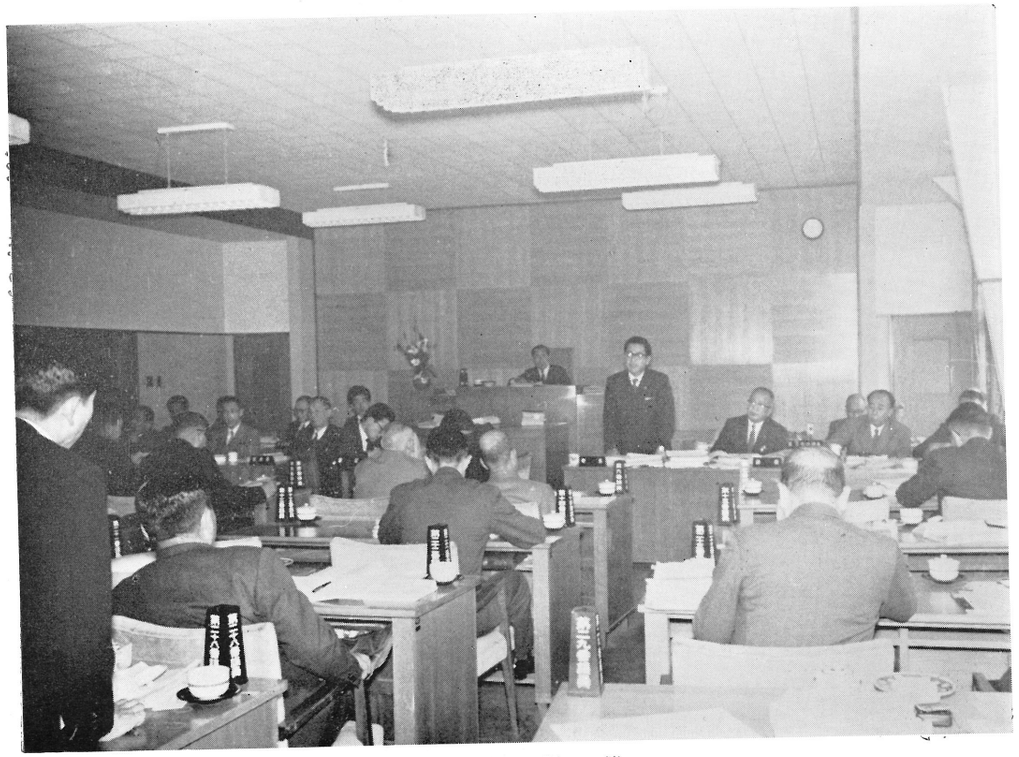
収入役
桑原三樹枝

庁　舎　全　影

議会議長
安西　信



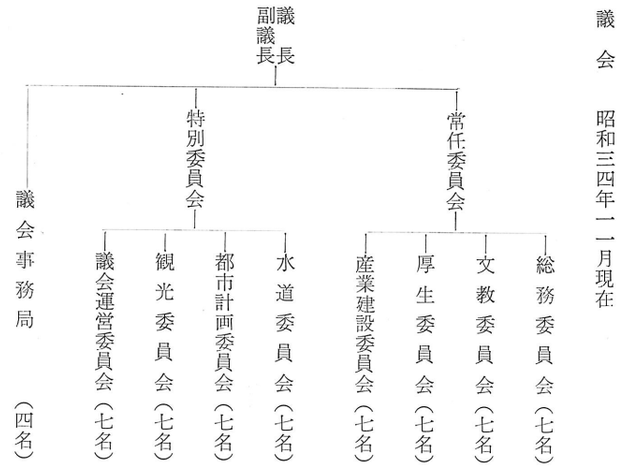
副議長
谷井潤三



議会開催

町機構及び機関

議会　昭和三四年一一月現在



以上の常任委員会、特別委員会の他に建設事業その他特に委員会を必要とする場合に設置する委員会もあります。

昭和 34 年度に既存する委員会名は

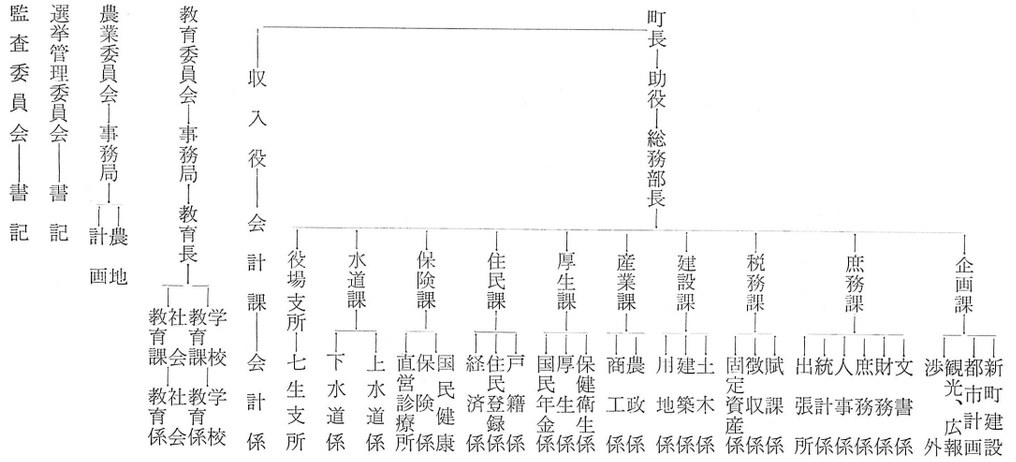
○離職者対策委員会＝基地に（その他の離職者も含む）就職する者が多い当地区は離職後の就職、事業等について対策を講じ援助を与える。

○し尿処理対策委員会＝都市計画事業の一環としての、し尿処理場は昭和 33 年、 34 年の継続事業で本委員会が担当しております。

○鉄道委員会＝鉄道利用者の増加に伴い駅の拡張その他交通関係の改善を検討しております。

○町立病院設立調査委員会＝町の急激な人口の増加に対処して、町立総合病院の建設計画を進めております。

行政機構図

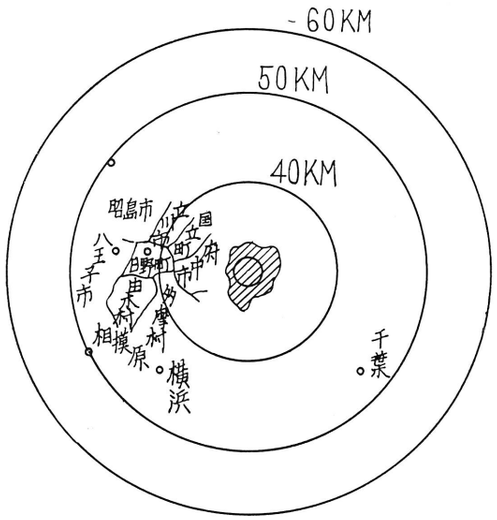


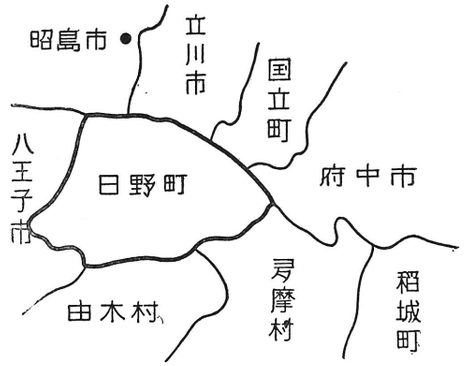
職員配置表

昭和 34 年 12 月 現在

課名	係名	係員計	主事及技師	主事補及技師補	雇員	傭人	臨時	その他
庶務課 (19)	庶務係	11		2	3	4	2	
	人事係	3		2	1			
	文書係	3		1	2			
	財政係	1		1				
税務課 (16)	賦課係	5	2	2	1			
	徴収係	6	1	4	1			
	固定資産係	4	2	1	1			
会計課 (6)	会計係	5		1	3		1	
住民課 (11)	戸籍係	3		1	2			
	住民登録係	4		3	1			
	配給係	3		1	2			
厚生課 (23)	保険衛生係	16		3	5		8	
	厚生係	5	2	1	1			1
	国民年金係	1	1					
国民健康保険課 (17)	国民健康保険係	8	3	4				1
	直診	8	1	1	4	1	1	
企画課 (4)	都市計画	2	2					
	新町建設	1	1					
	観光、広報、渉外	1	1					
水道課 (17)	上水道係	10	1		3		5	1
	下水道係	7	1		2		4	
産業課 (7)	農政係	5	1	2	2			
	商工係	1					1	
建設課 (17)	土木係	10	1	3	6			
	建築係	3	1	1	1			
	用地係	3		2	1			
農業委員会 (8)	農地係	8	1	2	3		2	
議会 (3)	庶務、議事	3		2	1			
学校教育課 (52)	事務局 学校教育係	6		3	3			
	給食作業 学校用務	45			8	2	35	
社会教育課 (5)	社会教育係	4	1	1	2			
七生支所 (6)	庶務係	2	1		1			
	住民係	3	2	1				
出張所 (8)	日野台	3	1		2			
	豊田	3	1	1	1			
	平山	2	1	1	1			
計		208	29	47	63	7	59	3

首都圏整備計画





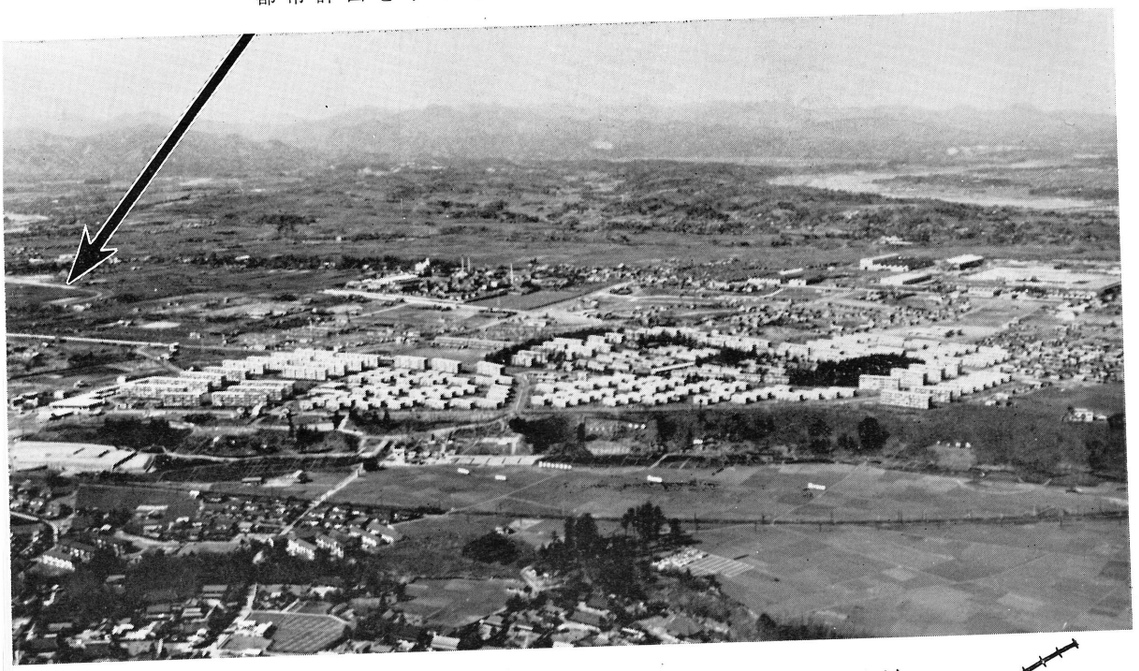
昭和 34 年5月 27 日八王子、日野地区は相模原、町田地区に次いで衛星都市第2号として「首都圏整備法」による市街地開発地区の指定を受けました。

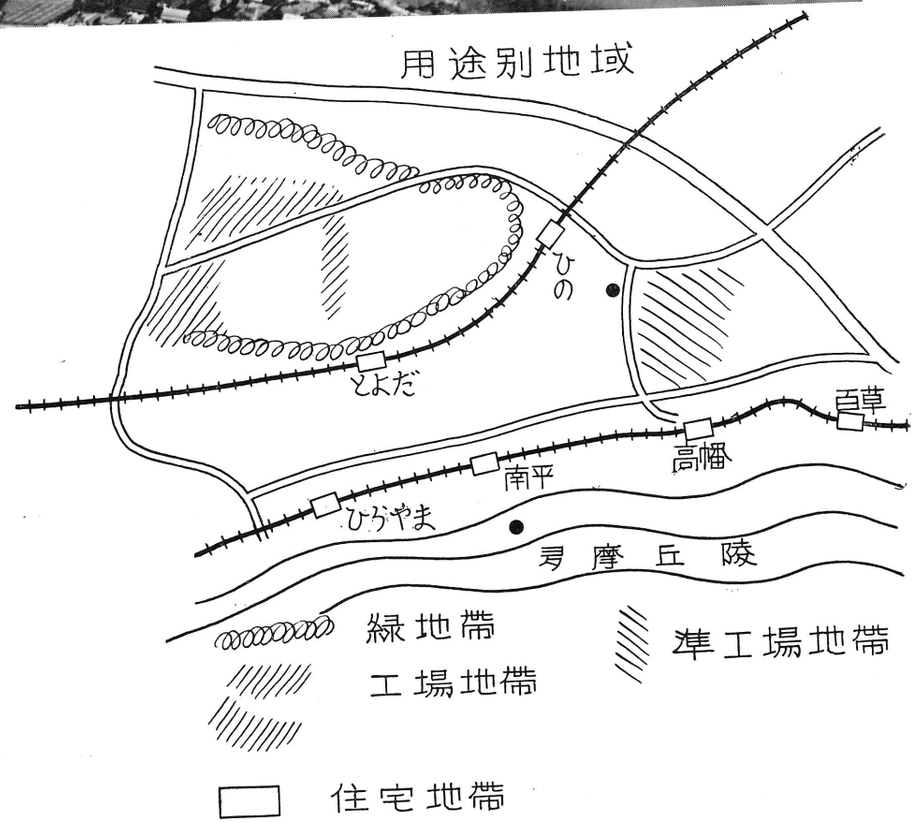
首都圏整備法の目的は東京の 23 区をはじめ、武蔵野市、三多摩市、横浜市、川崎市、川口市等に対して過度に集中している産業と人口を首都圏内に適正に分散、吸収して産業、住宅、交通等の計画的な発展を計るものであります。この指定をうけた地区については財政上、行政上にいろいろの便宜が与えられるので、今後の衛星都市としての発展に明るい希望が生れたわけであります。またそれと共に、重大な責任があるわけでもあります。

これからの工場誘致

既に日野台地には、日野自動車工業株式会社、小西六写真工業日野工場、富士電機製造株式会社豊田工場、神鋼電機株式会社東京工場外中小工場がありますが、その他特に工業団地開発について町の西北部一帯に、道路計画、排水計画等工場に対する立地条件を整備し或は工場誘致条例等を作り近代工業都市として発展させ、当地域の余剰労働力を吸収する様に計らなければなりません。これと同時に益々増加する人口に対しては日本住宅公団多摩平のみでなく、住宅地域の設定にそして教育施設の拡充、道路計画、上下水道計画、公園計画等をあらゆる角度から総合的に検討をして名実共にそなわった衛星都市とする様努力致しております。

都市計画をする地域





財政の概要

日野町は昭和 32 年2月七生村と合併し新町5ヵ年計画を樹立して、この目的達成に努力をしております。即ち財産収入の合理化、税収の確保、公債の合理化、行政組織の改善、等の推進を図っております。

昭和 34 年度一般会計歳入歳出予算

歳入 款	予算額	比率	歳出 款	予算額	比率
	円			円	
町税	161,683,640	65.3	議会費	7,426,900	3.0
地方交付税	2,242,000	0.9	役場費	49,158,932	20.0
公営企業及び財産収入	2,299,844	1.0	消防費	10,358,790	7.4
使用料及び手数料	9,134,420	3.7	土木費	39,346,350	15.9
国庫支出金	19,943,750	8.0	開発費	998,800	0.4
都支出金	18,346,900	7.5	教育費	66,910,585	27.0
寄附金	300	0.0	社会及び労働施設費	3,205,337	1.3
繰入金	100	0.0	保健衛生費	43,915,200	17.7
繰越金	9,000,000	3.6	産業経済費	6,590,080	2.7
雑収入	550,000	0.2	財産費	181,624	0.1
町債	24,234,500	9.8	統計調査費	77,500	0.0
			選挙費	819,100	0.3
			公債費	1,367,842	0.6
			諸支出金	9,002,200	3.6
			予備費	76,214	0.0
歳入合計	247,435,454	100.0	歳出合計	247,435,454	100.0

国民健康保険特別会計予算

34 年度予算

歳入 款	金額	歳出 款	金額
	円		円
国民健康保険税	7,049,800	役場費	2,609,840
一部負担金	1,000	保険給付費	10,514,300
財産収入	5,000	保険施設費	895,000
使用料及手数料	2,000	公債費	15,000
国庫支出金	4,839,000	趣旨普及費	86,000
都支出金	514,000	諸支出金	358,000
繰入金	1,961,000	予備費	49,160
繰越金	150,000		
雑収入	6,000		
歳入合計	14,527,800	歳出合計	14,527,800

国民健康保険特別会計直診勘定

34 年度予算

歳入 科目	金額	歳出 科目	金額
	円		円
診療報酬	4,690,000	施設費	5,825,080
一部負担金	620,000	給食費	280,000
使用料及手数料	75,500	諸支出金	51,000
繰越金	2,400	公債費	468,352
雑収入	552,000	予備費	50,068
繰入金	737,000		
歳入合計	6,674,500	歳出合計	6,674,500

日野町公益質屋特別会計

34 年度予算

歳入 科目	金額	歳出 科目	金額
	円		円
質屋収入	3,590,000	事務費	421,698
雑収入	20,000	事業費	3,480,000
繰越金	620,000	交付金	1,000
		公債費	132,500
		予備費	14,402
歳入合計	4,049,600	歳出合計	4,049,600

日野町上水道事業特別会計

34 年度予算

歳入 科目	金額	歳出 科目	金額
	円		円
上水道事業資本的収入	36,500,000	上水道事業資本的支出	36,500,000
歳入合計	36,500,000	歳出合計	36,500,000

日野町下水道特別会計

34 年度予算

歳入 科目	金額	歳出 科目	金額
	円		円
営業収益	2,108,000	事業費	2,304,170
営業外収益	196,170	事業外支出	539,070
歳入合計	2,304,170	歳出合計	2,304,170

昭和 33 年度下水道事業損益計算書

(単位円)

1.営業費用		1.営業収益	
処理費、総係費	643,506	処理収益	518,437
2.営業外費用		2.営業外収益	
利息及配当金	368,704	受取利息及配当金他、雑収益	96,256
		当年度純損失	397,517
計	1,012,210	計	1,012,210

昭和 33 年度下水道事業貸借対照表

(単位円)

資産の部			負債の部		
固定資産			固定負債		
	38,479,482		企業債	12,000,000	
流動資産			流動負債		
	8,650,834		一時借入金	4,722,000	
			未払金	3,201,833	
					19,923,833
			資本の部		
			剰余金		
			資本剰余金	27,604,000	
			利益剰余金		
			当年度純損失	△ 39,517	
					27,206,483
計	47,130,316		計		47,130,000

昭和 33 年度決算一覧表

(単位千円)

分類 / 会計別	予算額歳入歳出	決算額 歳入	決算額 歳出	昭和 34 年度繰越
町一般会計	224,164	222,892	明許 3,236 213,282	9,615
特別会計公益質屋	4,233	3,136	2,049	1,037
特別会計国民健康保険	14,091	14,233	13,223	1,705
特別会計汚水処理場	17,500	10,988	9,221	1,757
特別会計上水道事業	4,000	4,000	4,000	0

起　　債

借入目的別起債高　昭和 34 年 11 月現在

起債目的	未償還額	借入先別	未償還額
	円		円
教育債	9,408,396	大蔵省	17,064,940
社会及労働施設債	2,456,544	郵政省	10,235,600
保健衛生債	14,935,600	東京都	500,000
警察消防債	1,000,000	大蔵省	——
合計	27,800,540	合計	27,800,540

町有財産

土地の部

種別	坪数
庁舎敷地	1,221.00
消防署敷地	437.00
七生支所	119.00
豊田出張所	231.00
警察駐在所	406.00
小中学校敷地	50,818.00
町営住宅敷地	16,144.00
東部共立病院診療所	954.00
国民健康保険診療所	395.00
公園広場	1,011.00
火葬場及墓地	750.00
上水道敷地	1,009.00
下水道敷地	2,400.00
共同作業所	888.00
その他	33.00
合計	76,849.00

建物の部

種別	坪数
庁舎	480.35
消防署	125.73
七生支所	84.33
豊田出張所	35.00
日野台出張所	33.00
教員住宅	227.90
下水道建物	55.00
町営住宅	1,333.50
小中学校	7,397.48
国民健康保険診療所	149.50
医師住宅	18.00
公益質屋	15.00
共同作業所	128.00
火葬場	18.58
その他	68.00
合計	10,169.87

税　　政

町民負担額

（単位円）

年度別	課税額	人口	世帯数	町民1人当	1世帯当	備考
昭 30	114,954,553	26,757	5,600	4,296	20,528	決定
31	132,342,441	27,861	5,723	4,250	23,125	〃
32	156,688,490	28,820	6,193	5,437	25,301	〃
33	160,641,572	29,820	6,498	5,387	24,722	〃

町税徴収状況

昭和 33 年度決算

税種目	現年度 調定額	現年度 収入額	現年度 収入率	滞納繰越 調定額	滞納繰越 収入額	滞納繰越 収入率
	円	円	%	円	円	%
普通税	160,641,578	154,196,222	96	13,682,772	6,770,986	49
町民税	61,775,024	60,252,6	97	3,936,273	1,832,083	47
固定資産税	71,157,220	66,322,280	93	9,746,499	4,938,903	51
軽自動車税	637,190	549,120	86	—	—	—
町たばこ消費税	8,611,180	8,611,180	100	—	—	—
電気ガス税	18,460,964	18,460,964	100	—	—	—
木材引取税	—	—	—	—	—	—
旧法による税	—	—	—	874,243	377,433	43
総計	160,641,578	154,196,222	96	14,557,015	7,148,419	49

民有土地年次別推移（課税対象）

年度別	宅地	田	畑	池沼	山林	原野	雑種地	鉄道用地	合計
	坪	反	反	反	反	反	反	反	反
昭30年	698,795	4,211	6,492	3	4,404	454	79	75	18,046
31	701,762	4,217	6,468	3	4,407	449	89	75	18,047
32	754,115	4,205	6,400	3	4,327	459	100	75	18,082
33	778,984	4,120	6,320	3	4,476	215	135	79	17,944
34	823,858	4,150	6,179	3	4,470	210	191	79	17,932

合計の減は道路、学校用地等の地目変換に因る

木造家屋年次別床面積税推移

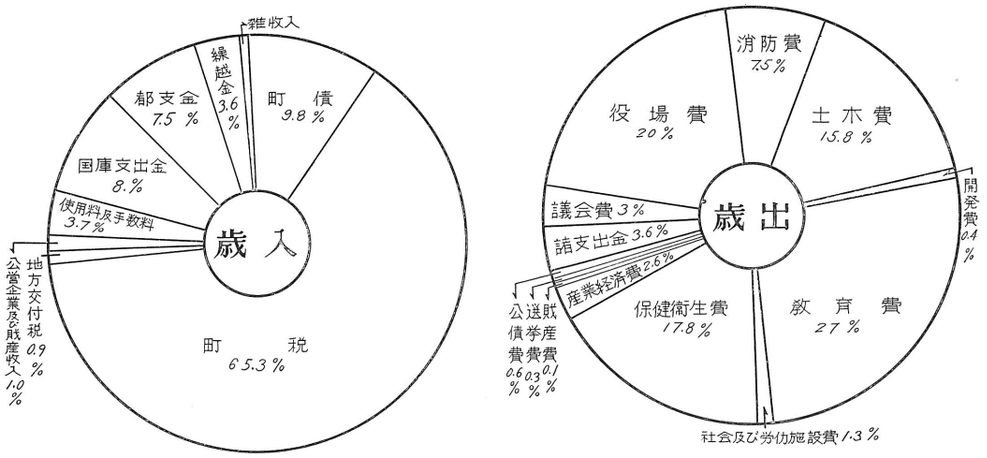
年度 / 種別	総床面積	戸数	専用住宅	店舗	工場	その他
	坪	個	坪	坪	坪	坪
30	131,883	4,424	101,812	5,539	21,108	3,424
31	135,691	4,646	104,869	5,669	21,212	3,941
32	140,813	4,856	108,609	6,632	21,284	4,288
33	147,489	4,645	113,695	7,364	21,385	5,045
34	152,801	4,760	117,700	7,978	21,860	5,263

非木造家屋年次別床面積推移　34. 1. 1 現在

種別 / 年度	総床面積	戸数	住宅	店舗	工場	その他
	坪	坪		坪	坪	坪
30	26,854	71	—	193	26,661	—
31	27,484	74	—	193	27,291	—
32	29,934	80	—	193	29,741	—
33	37,861	97	—	193	37,597	71
34	48,755	182	9,150	399	39,131	75

家屋戸数床面積数

	戸数	総床面積
木造家屋	4,760	152,801.16坪 (505,128m²)
木造以外	87	48,755.60 (161,175m²)
計	4,847	201,556.76 (666,303m²)



昭和 34 年度一般会計歳入歳出当初予算図表

人口と世帯

日野町の人口増加を見ると三段階に大別することが出来ます。もともと日野町は農村であって、明治、大正そして昭和 15 年頃までは急激な増加が見られずに来ましたが、昭和 16 年頃から近代的工業都市として発展したゝめに一躍倍増したのであります。其の後昭和 32 年隣接の七生村との合併により増加するとともに、日本住宅公団の大規模な住宅開発によって飛躍的な増加率を示したものであります。

世帯人口の推移

年次	世帯数	男	女	計	一世帯平均人口	女100に対して男の率
昭和 21 年	3,608	8,185	8,545	16,730	4.63	96
昭和 22 年	3,804	8,638	8,734	17,372	4.57	99
昭和 23 年	3,865	8,812	8,919	17,731	4.58	98
昭和 24 年	3,866	8,932	9,007	17,939	4.63	99
昭和 25 年	3,938	9,025	9,129	18,154	4.61	99
昭和 26 年	3,978	9,321	9,307	18,628	4.68	100
昭和 27 年	4,002	9,479	9,397	18,876	4.72	101
昭和 28 年	4,168	9,745	9,634	19,379	4.65	101
昭和 29 年	4,249	9,958	9,752	19,710	4.64	102
昭和 30 年	4,407	10,245	10,038	20,283	4.60	102
昭和 31 年	4,788	10,885	10,724	21,609	4.51	102
昭和 32 年	4,950	11,219	11,142	22,361	4.52	101
昭和 33 年	6,663	15,260	15,255	30,515	4.58	100
昭和 34 年	9,102	18,911	18,728	37,639	4.14	101

地区別人口

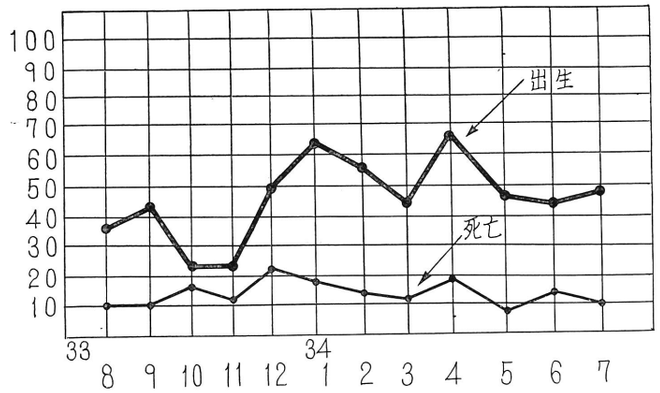
分類 / 地区別	昭和 33.9.1 日		昭和 34.9.1 日	
	世帯数	人口	世帯数	人口
本庁	3,040	13,519	3,315	14,007
七生支所	1,010	4,980	1,085	5,190
豊田出張所	938	4,300	2,950	10,403
日の台 〃	1,177	5,047	1,233	5,268
平山 〃	498	2,669	519	2,771

外国人登録人口

国籍	男	女	計	世帯数
朝鮮	47	38	85	19
韓国	9	5	14	6
アメリカ	5	6	11	3
フランス	1	1	2	1
中国	6	1	7	2
計	68	51	119	31

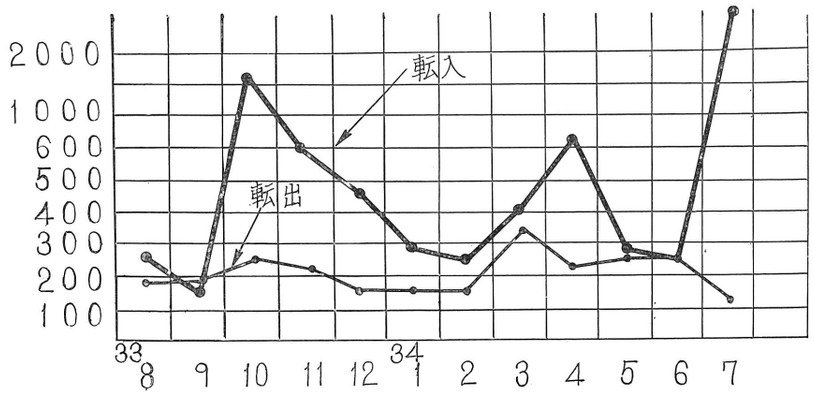
人口自然動態

昭和 33 年 8 月～昭和 34 年 7 月



人口社会動態

昭和 33 年 8 月～昭和 34 年 7 月



月別人口動態

年月＼区別	婚姻	離婚	出生	死亡	死産	転入	転出
33. 8	13	2	42	15		241	196
9	18	2	30	15	2	183	194
10	19	1	40	19	1	1,694	236
11	72	3	35	20	1	682	211
12	66	3	43	22	1	471	167
34. 1	33	0	52	25	1	293	168
2	40	2	41	19	1	262	160
3	47	4	46	23		407	346
4	47	1	44	19		543	224
5	71	1	38	13	1	282	250
6	47	2	40	20		235	234
7	26	3	48	19		2,923	149
計	499	24	499	229	8	8,216	2,535

教育文化

人口の急激なる増加と共に都市化による校舎の増改築はきわめて難事業でありますが、住民の教育に対する熱意により着々とその成果を収めております。又一方社会教育に対しても、青年学級婦人学級等積極的に行なわれて各文化団体の育成或いは文化財保護等も逐次進展しております。

近代的な第五小学校

教育委員会委員長
森久保敏治

プール

教育長　永野林弘

町立学校の現況

昭和 34 年度

種別 / 校名	職員数	児童数	学級数	校舎面積	校地面積	建物様式	教室 普通	教室 特別	教室 計
				坪					
第一小学校	35	1,205	25	1,164	6,333	木造二階建 スレート葺	25	4	29
第二小学校	18	554	13	718	3,044	〃	14	6	20
第三小学校	23	806	17	868	4,645	〃	13	6	25
第四小学校	17	520	12	562	4,717	〃	12	2	16
第五小学校	13	574	11	566	5,577	鉄筋コンクリート 二階建	11	2	13
潤徳小学校	21	648	15	723	4,846	木造二階建 外部モルタル仕上	15	4	19
〃 落川分校	2	46	2	42	237	スレート葺 木造二階建 トタン葺	2	—	2
平山小学校	14	394	10	518	1,806	木造二階建 スレート葺	10	2	12
小計	143	4,747	105	5,161	31,205		108	26	134
第一中学校	23	675	14	973	5,686	木造二階建 スレート葺	19	10	29
第二中学校	22	670	13	669	5,870	〃	14	6	20
七生中学校	15	375	9	549	5,675	〃	10	5	15
小計	60	1,720	36	2,191	17,231		43	21	64
合計	203	6,467	141	7,352	48,436		151	47	198

日野町立小中学校年次在籍児童数

年次 / 学校名	小学校 在籍児童 男	女	計	学級数	学級当り平均児童数	小学校 職員数 男	女	計	中学校 在籍児童 男	女	計	学級数	学級当平均児童数	中学校 職員数 男	女	計
31	1,555	1,505	361	65	47	51	37	85	709	716	1,425	28	51	35	11	46
32	2,152	2,093	391	94	45	75	57	132	930	861	1,796	37	49	48	13	61
33	2,218	2,157	404	97	45	77	52	129	843	812	1,655	36	46	46	15	61
34	2,383	2,369	392	105	45	81	62	143	890	830	1,720	36	48	44	16	60

31 年度は旧日野町のみ

昭和 33 年度各中学卒業後の状況

件名	性別	一中	二中	七生中	計	備考（百分率）
全日制	男	80	83	43	206	60.0%
	女	69	67	49	185	
定時制	男	5	8	7	20	7.0%
	女	17	3	6	26	
就学	男	24	22	15	61	26.0%
	女	48	37	26	111	
無職	男	100	3	7	20	7.0%
	女	19	8	0	27	
合計						100.0%
		272	231	153	656	

社会教育はその都市に於ける文化のバロメーターともみられ、都市の発展と共に高度なる社会教育システムが必要となります。学校の整備はその必要性に迫られて完備しつつあり、これに伴って公民館、図書等も近々に整備すべく計画中であります。

社会教育の現状

社会教育団体

日野町立学校ＰＴＡ協議会　　小学校、中学校ＰＴＡ連合会

婦人団体

日野町婦人会　　日野町母の会連合会
日野町婦人友之会　　日野町農協婦人部
日野町暁婦人むつみ会　　日野町七生婦人会

青年団体

日野町青年連絡協議会　　豊田青年会
日野町青年会　　日野台青年会
日野町七生青年団　　緑ヶ丘若人会
第一豊田荘青少年文化会　　日野台若人会
富士組青年会　　日野台暁青年会

第一日野万青年会		横町青年会	
万願荘青年会		森町青年会	
四ツ谷青年会			

子供会

さつき会		高幡若草会	
千草苑子供会			

文化団体

ボーイスカウト日本連盟		日野町飛火野吟社	
南多摩第四団		日野町清交俳句会	
日野町史談会		多摩平文化連盟	
日野町書道連盟		日野アマチウア写真連合会	

体育団体

日野町体育協会		日野町陸上競技連盟	
日野町水泳連盟		日野町軟式庭球連盟	
日野町軟式卓球連盟		日野町剣道連盟	
日野町軟式野球連盟		東京都自転車連盟日野支部	

読書サークル団体

豊田第一読書グループ		紫苑読書グループ	
第一豊田荘読書グループ			

指導組織

社会教育委員会	27人	日野町青少年委員	10人
東京都青少年委員日野地区委員	4人	東京都体育指導委員	4人

社会教育教材

視聴覚ライブラリー	映写機3台（エルモＳＰ１型　エルモＫ５型　北辰ＳＣ６型）
映写機操作技術者	５名（教育委員会事務局）

文化財の現況

重要文化財（国宝指定及都重宝）の保存及び復旧工事

1. 建造物	昭和 21 年 2 月 29 日指定	国　宝	金剛寺不動堂及仁王門（建築年代室町時代 暦応２年）
〃	昭和 35 年 2 月 13 日指定	都重宝	金剛寺旧五部社殿一棟一間社流造鉄板葺
2. 旧　跡	昭和 28 年11月 3 日指定	都重宝	平山季重墓（日野町平山宗印寺内）
3. 彫　刻	昭和 29 年 2 月 3 日指定	都重宝	木造阿弥陀如来坐像（日野町安養寺）

公　安

日　野　警　察　署

日野警察署は国道に面し日野、稲城、多摩の治安を維持しております。署員は 107 名、派出所 4 部長派出所１、駐在所 17 があります。

特に近年激増しつつある交通事故については、これが対策に特段の努力をしてますが自動車及び歩行者も積極的に協力されたいものであります。

日野消防署は、昭和 23 年３月に警視庁消防から町消防に移され、現在署員 25 名で、本部のほか２カ所の派出所があり、540 名の消防団員と緊密なる連けいのもとに町内及隣接町村の消防行政に大きな役割を果しております。

交通事故件数

年度	件数	死亡	重傷	軽傷	物件
32年	157 件	3 人	18 人	60 人	76 件
33年	289	5	31	118	135
34年１～10月	318	11	21	147	139

犯罪と検挙

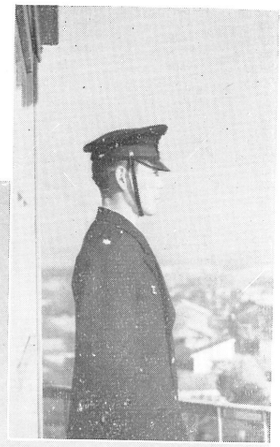
年次別	兇悪犯				粗暴犯	窃盗犯	詐欺横領その他	合計	検挙率
	殺人	強盗	強かん	放火					
32年	件	1件	7件	—	46	254	48	356	73%
33年		2	6	5	72	190	106	381	99%
34年6月迄	1	6	5	—	35	73	53	173	89%

少年犯罪

年次別	刑法犯						諸法令違反	合計	補導		
	兇悪	粗暴	窃盗	詐欺	横領	その他			男	女	合計
32年	4件	17件	24件	1件	2件	5	21	74	372	31	403
33年	15	13	23	2		5	14	72	262	33	295
34年6月末	3	15	9	3	2	3	6	41	197	11	208

交通の激増する甲州街道

消　防



日野町消防署全影

消防署と消防団の現況

消防本部	消防署	出張所	消防署吏員						消防団		
			消防司令長	消防司令	消防司令補	消防士長	消防士	計	消防団	分団	団員
1	1	2	1	1	2	4	22	30	1	9	540

装　備

所属＼種別		ポンプ自動車	三輪ポンプ車	可搬式ポンプ	救急自動車	乗用車	消火栓	貯水槽
消防本部	消防署	5			1	1	184	76
	消防団	1	5	22				

消 防 団 出 初 式

予　　算

俸給給与	機械購入費	施　設　費	其の他需用費	計
9,684,790	4,572,000	650,000	3,452,000	18,358,790

火災件数と損害

火災種別	件数	焼失面積	損害額
建物火災	20	411m²	3,553,000
林野火災	4	7,458m²	
その他	1		
計	25		3,554,000

救　急　出　動

種別	救急	急患	その他	計
件数	541	81	5	627

建　築　合　議

昭和 33 年

用途別 / 工事別	専用住宅	店舗併用住宅	共同住宅	工場及作業所	倉庫	学校	医療関係	その他	合計
新築	260	24	16	9	6	3	3	17	338
増築	47	23	—	7	4		3	2	86
小計	313	47	16	16	10	3	6	19	430

農　　産

日野町農業の特色

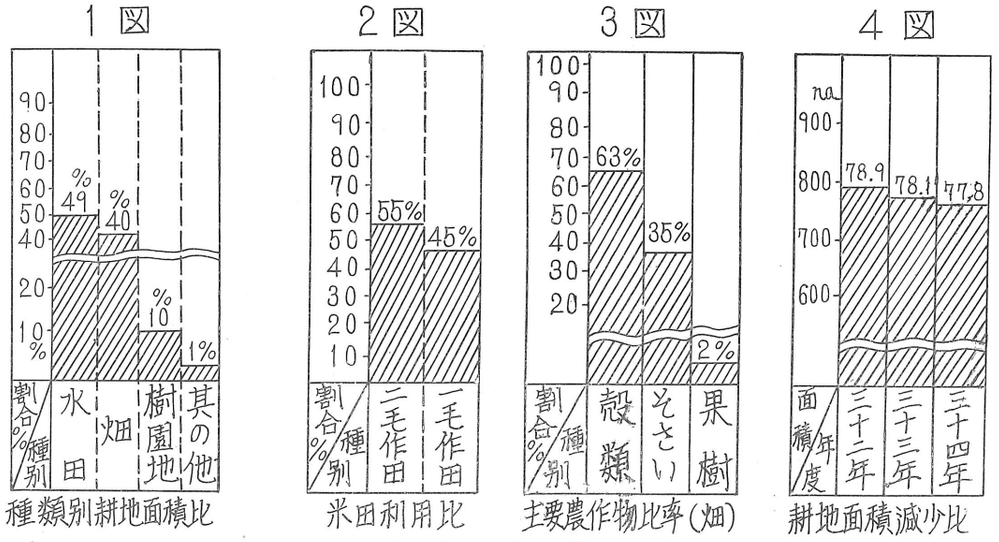
日野町の中央を浅川が、北側を多摩川が西より東に貫流し、東南端で合流しています。この河川の沿岸は平坦にして水利がよく水田が開け東京都下随一の穀倉となっております。西北部は台地となって畑作が盛んでありましたが、近年富に工業と住宅が建設され宅地化が著しく畑作は衰退しております。南側を東西に走る丘陵があり雑木林を形成して農業用とされております。

生産物輸送状況

国道 20 号線が 4 K 590 M、都道 22 K 770 Mが縦横してこれに町道が接続し国鉄又は京王電鉄があって八王子、立川市場えは 3 ～ 5 K、東京市場には 30～40 Kの距離にあるため自家用三輪車にて生産物は容易に出荷することが出来ます。

農業経営の動向

都市化の著しい日野町農業は高度な集約経営が必要とされて農村振興 5 カ年計画を樹て果樹、花卉、高級野菜、畜産が盛になりつつあります。



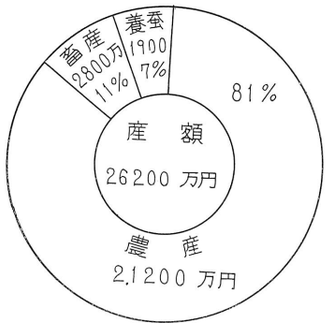
注 1.2.3 図は昭和34年2月1日現在東京都農業経営基本調査

農業戸数及び人口

昭和33年度調

項目	戸数	人口		
		男	女	計
総戸数	7,488	16,530人	16,470人	33,000人
農家戸数	1,099	3,397	3,421	6,818
率 %	14.8	20.6	20.8	20.7

種類別農産額



東光寺の干大根

専業、兼業別農家戸数

昭和 34 年2月1日現在

総農家戸数	専業			兼業		
	総数	農業のみ	準専業	総数	農業を主とするもの	農業以外の仕事を主とする
1,099	383	333	50	716	360	356

耕作規模別農家戸数

昭和 34 年2月1日現在

総農家戸数	耕作規模別農家戸数					
	3反未満	3～5反	5反～1町	1町～1.5町	1.5町～2町	2町～3町
1,099	226	169	413	241	47	3

主要農作物の作付面積および収穫高

作物名	作付面積	収穫高
	ha	kg
水陸稲	460	1,262,000
麦類	313	685,000
豆類	2	197,000
いも類	91	1,154,000
果菜類	44	1,067,000
根菜類	60	1,464,000
葉菜類	35	918,000
果実類	15	562,000

麦　類＝大麦、ビール麦、小麦、裸麦

豆　類＝あづき、大豆

いも類＝さつまいも、じやがいも

果菜類＝なす、きゆうり、トマト、西瓜

根菜類＝キヤベツ、白菜、ほうれん草、小松菜

果実類＝梨、柿、桃

農機具所有台数

機別	モーター発動機		動力脱穀機		動力噴霧、さん粉機		耕うん機 大型5㎰以上		耕うん機 小型5㎰以下		三輪車
	個人	共同	個人	共同	個人	共同	個人	共同	個人	共同	
台数	893	111	733	75	73	18	48	81	156	25	223

家畜頭羽数

昭和 34 年2月1日

家畜別	牛			馬	めん羊やぎ	豚	にわとり
	総数	乳牛	役肉用				
頭数	381	155	226	44	134	375	7,316

農地転用状況

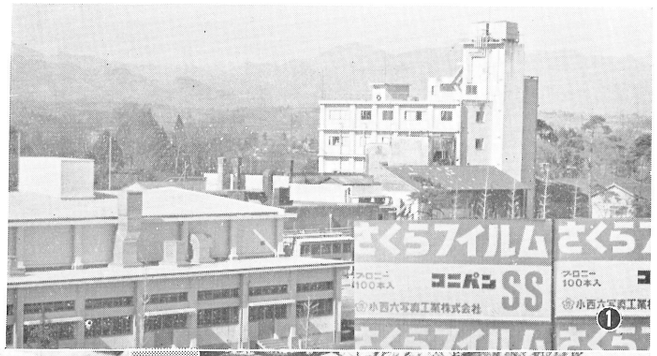
昭和 33 年度

分類	田	畑	計
一般住宅	42,225	265,726	307,951
工場	—	1,322	1,322
計	42,225	267,048	309,273

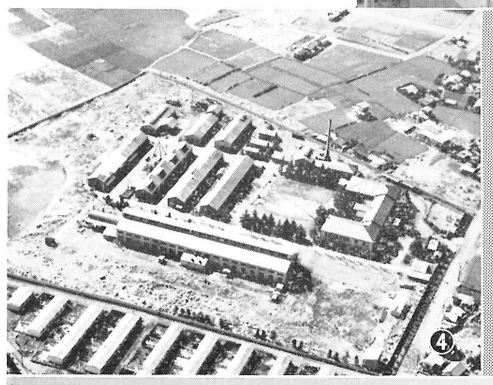
工　　業

当日野町は工業振興の適地として自然的、人為的条件に恵ぐまれおります。即ち交通の便、空気の清澄なこと、地下水の豊富なこと、排水の便なこと等々で昭和の初年から我が国工業界のメーカーが設立されると共に下請工場が出現して現在に至りました。町当局としてもこれら工業の発展を更に図るため工業立地条件の改善特に道路の完備によって、輸送力の増大、給排水の施行、新規工業の誘致、育成に努力しております。

写真説明①小西六写真工業株式会社と製品②日野自動車工業株式会社のルノー③オリエント時計株式会社製品④神鋼電機株式会社工場⑤富士電機製造株式会社豊田工場⑥羽田ヒーム管株式会社



❶

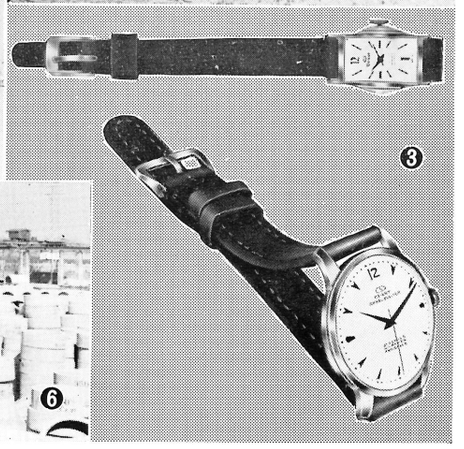


❹

❺

❻

❷



❸

主 要 工 業

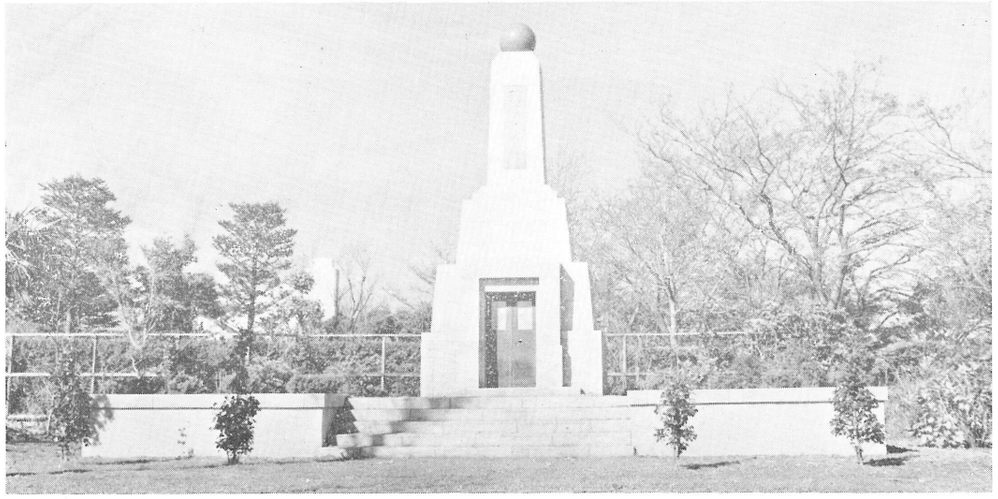
企業名	主要製品
日野デーゼル工業株式会社	大型自動車製造
富士電機製造株式会社豊田工場	工業計器、電機計器、継電機
小西六写真工業株式会社日野工場	さくらフイルム製造
オリエント時計株式会社豊田工場	時計製造
株式会社ルノー工場	小型乗用車
神鋼電機株式会社東京工場	変圧器、その他電気機械製造
日本篩絹株式会社	絹篩
羽田ヒユーム管株式会社	セメント製品（ヒユーム管、ブロック、その他）
株式会社日野鋳造所	自動車部品各種鋳物
千代田自動車株式会社	自動車修理

商　　業

日野町は都心への交通の便がきわめて良く、その上に八王子、立川の商業地を控えていたため、現在までは非常に発展が阻害されていたが、近頃急激なる人口の増加に伴ってデパート、或いはストア、商店街がようやく進出して来ました。

多摩平の豊田駅前

社 会 及 び 労 働



慰　霊　塔

遥かに富岳を仰ぎ、多摩の清流を見おろす御野立松の聖地750坪の地に、第二次世界大戦に命を捧げた郷友 360 余柱を祀ったこの忠霊塔は、昭和32年４月に日野町慰霊塔建設協賛会が発足し、町民より寄せられた浄財と町積立金の 190 万円によって建設されたものであります。

児童福祉施設

1. 常設保育所

施設名	所在地	公私別	定員		収容実人員			施設長名	電話
			乳児	幼児	自由	措置	計		
日野保育園	日野 4,315	私	3	88	115	24	139	野原キク	日野 249
日野第二保育園	日野 310	〃	1	66	79	32	111	〃	
ときわ保育園	高幡 696	〃	1	50	28	22	50	江角通	
至誠学舎第二保育園	東町 1,226	〃	5	68	15	39	54	高橋田鶴子	立川 2284

2. 季節保育所開設状況

施設名	開設期間	受託者氏名
下田安養寺保育所	春期 自 6 月 10 日 至 7 月 9 日 秋期 自 10 月 25 日 至 11 月 24 日	石黒亮雅
落川保育所	春期 自 6 月 10 日 至 7 月 9 日 秋期 自 10 月 15 日 至 11 月 14 日	安恒キクヱ

年度別生活保護状況

区分	昭和 31 年度		昭和 32 年度		昭和 33 年度	
	世帯数	人員	世帯数	人員	世帯数	人員
生活保護	58	206	65	228	165	383
医療保護	21	22	17	20	22	54

年度別保護救済状況

種別	昭和31年度 対象世帯	昭和31年度 慰問状況	昭和32年度 対象世帯	昭和32年度 慰問状況	昭和33年度 対象世帯	昭和33年度 慰問状況
中元見舞	78	砂糖 25貫700 手拭 285本 見舞金1人 400円	90	砂糖 31貫 手拭 353本 見舞金 28,750円	116	35,556円
歳末慰問	75	餅代 21,400円 醤油 110本 砂糖 25貫	90	見舞金 82,700円 醤油 128本 砂糖 29貫	208	215,696円

募金状況

昭和33年度

種別	日赤募金	共同募金	歳末助け合い
目標額	204,600円	277,400円	140,000円
募金額	215,665	255,356	155,696
目標達成率	105%	92%	111%

民生（児童）委員及母子福祉委員

民生委員　定員　20名 { 男 15名 / 女 5名 }

母子福祉委員　定員2名　女2名

共同作業所

所在地	職員数	職員 男	職員 女	職員 計	作業内容
日野町大字下田（旧下田学校）	1	1	—	1	フイルムテレンプ張り、人造竹皮綴づけ

公益質屋

所在地	職員	運営資金	開設年月日
日野町大字日野 2,510 番地	2	1,500,000	昭和25年12月15日

簡易郵便局

所在地	職員	開設年月日	取扱事務
日野町日野台 7,221　電話日野 26 番	2	昭和27年5月16日	貯金（定額、為替、振替） 郵便（除集配）

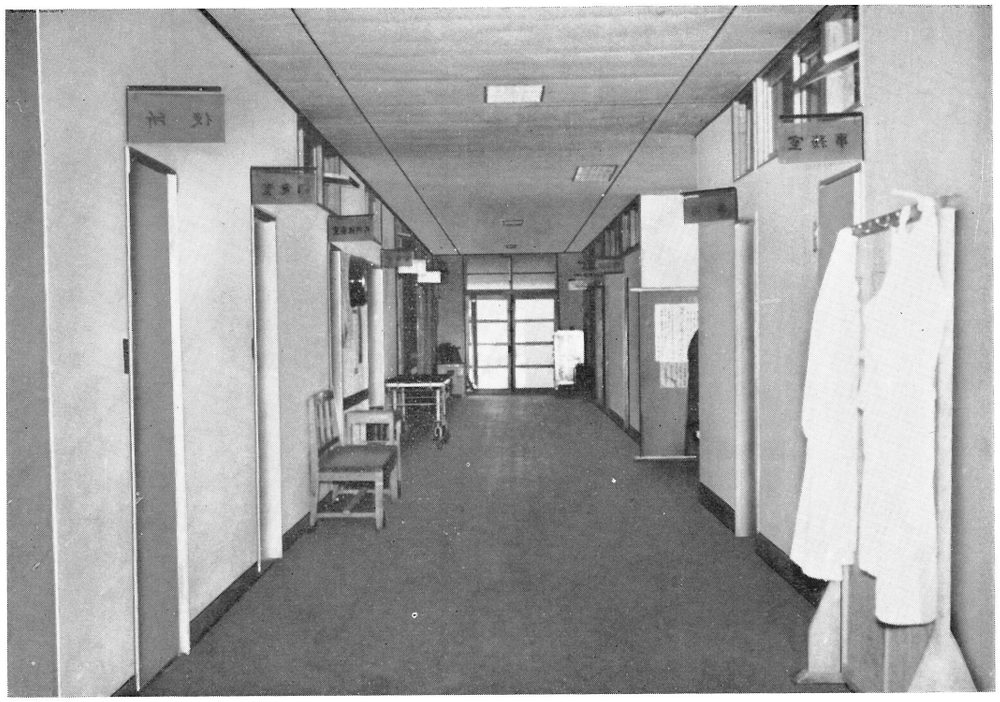
児童遊園地

施設ヶ所数	規模	備考
21ヶ所	スベリ台、　、ブランコ、その他	34年度3ヶ所設置

東京都南多摩郡児童会館

東京都内の小中学校児童生徒が利用する様、高幡不動尊境内に昭和 28 年4月、都に於いて開設しました。

国民健康保険



国保直営診療所

日野町の国民健康保険は先に七生村が昭和 23 年 10 月1日より発足し旧日野町が昭和 27 年6月1日に開始したのでありますが、昭和 33 年2月1日に日野町、七生村が合併して一本となりその後日本住宅公団等による人口の急増に対しいよいよ発展してまいりました。

予算

昭和34年度

歳入		割合	歳出		割合
保険税	7,049,800	48.5%	役場費	2,609,840	18.0%
一部負担金	1,000	0.01	保険給付費	10,514,300	72.4
国庫支出金	4,839,000	33.3	保険施設費	895,400	6.2
都支出金	514,000	3.5	公債費	15,000	0.1
一般会計繰入金	1,961,000	13.5	趣旨普及費	86,000	0.6
繰越金	150,000	1.0	諸支出金	358,100	2.5
その他の収入	13,000	0.1	予備費	49,160	0.4
合計	14,527,800	100.0	合計	14,527,800	100.0

被保険者数及び保険税

年度	被保険者 世帯	被保険者 保険者数	調定額 円	収納額 円	収納率 %	平均保険税 一世帯当り 円	平均保険税 被保険者一人当 円
昭和33年	1,870	8,505	6,704,840	5,943,290	88.6	3,534	781
昭和34年	1,943	8,632	7,049,800	6,556,300	93.0	3,628	817

保険税賦課割合及び税率

昭和 34 年度

区分	賦課割合	税率
所得割	40 %	課税標準額の 100 分の 1.5
資産割	10	固定資産税（土地家屋）の 100 分の 8.8
被保険者均等割	25	被保険者１人につき 200 円
世帯平均割	25	一世帯につき 900 円

昭和 33 年度に於ける給付状況

種別		件数	日数	費用額 円	保険者負担分 円	一部負担金 円	公費負担分 円	費用／件数
療養の給付	入院	504	7,292	4,165,243	2,047,534	2,047,530	70,179	8,264
	入院外	15,122	65,076	11,630,578	5,722,701	5,722,697	185,180	769
	歯科	4,409	16,554	3,513,000	1,756,505	1,756,498	—	868
	薬剤の支給	5	5	6,574	3,287	3,287	—	1,315
	小計	19,680	88,927	19,315,398	9,530,027	9,530,012	255,359	981
療養費		127	—	267,055	133,546	133,509		
その他の給付		176	—	255,000				
合計		19,983	—	19,837,453				

日野町診療所

日野、七生合併以前七生村直営診療所として発足し、その後利用者の増加に伴って昭和 29 年度に直診設立の国庫補助が認可され同年 11 月着工、翌 30 年３月完成、４月１日より開所されました。経費は約 1,000 万円であります。

規模　敷地　400坪

建坪　183.5坪（診療棟　1棟　142.5 坪（病床 15）／医師住宅　2棟　34 坪／車庫　1棟　7 坪）

職員

医師 3名　看護婦 4名　事務員 2名　運転手 1名　雑役婦 1名　計 11 名

診療科目

内科、小児科、外科、産婦人科、皮膚泌尿器科

特設

X線　東芝ＫＸ０～５型　患者輸送車

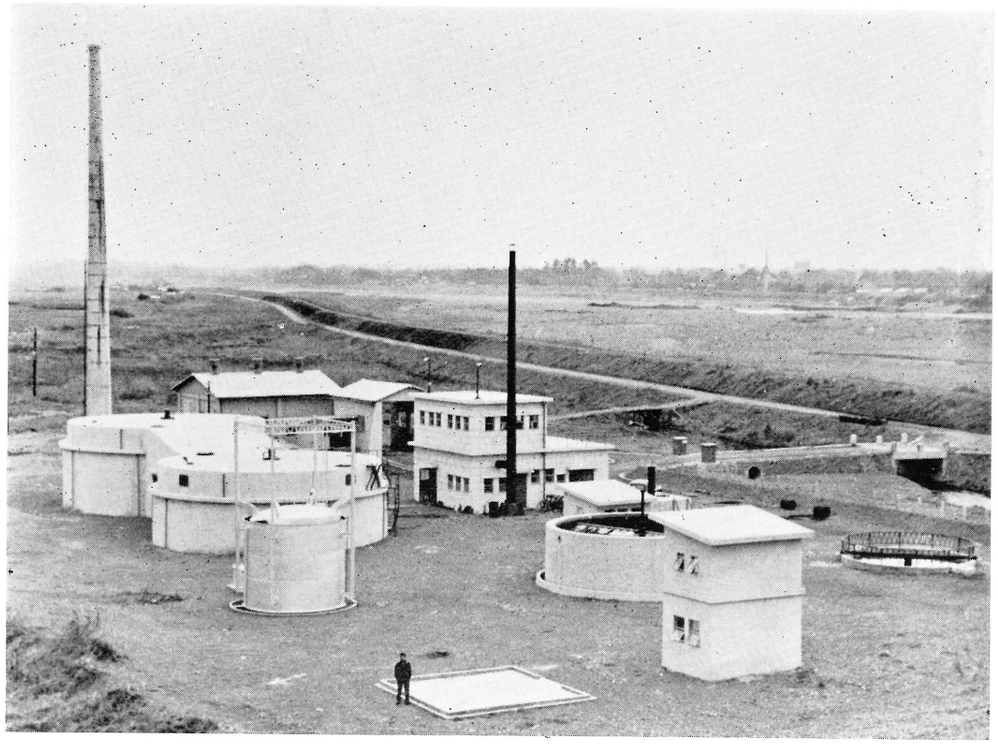
諮問機関

国民健康保険運営協議会―被保険者を代表する委員 3名／医師、薬剤師を代表する委員 3名／公益を代表する委員 3名

町立総合病院設立計画

日野町は昭和 33 年度に於いて、首都圏整備法の指定を受けモデル都市として急激な発展をしつつありますが、病院の施設はこれに追従出来ず、入院患者の大部分は町外の病院を利用せざるを得ない状態のため、医療検査施設の充実した公的機関を設置する必要があり、設立認可を申請中であります。

保健衛生



塵芥処理及し尿消化槽

保健は衛生から、日野町は急激に人口が増加しているため塵芥処理屎尿処理には非常な困難を齎らましたが、逐次軌道に乗り現在では周到なる計画の基に近代的施設を完備しつつあります。

この終末処理こそ衛生的環境の向上であり、保健の第一歩でもあります。

塵芥処理施設

塵芥処理は町直営で一部住宅公団区域を業者に委託しておりますが、直営としては中型四輪車（バックマスタ）１台と三輪車３台作業員 12 名にて 1,970 戸の塵芥処理を行なっております。

し尿処理

日野町全体の 80% を町営で処理し 15% を特別会計事業の下水道で、約５%を農家によって処理されている状況であります。

し尿消化槽並に塵芥処理施設

名称	位置・面積	主なる施設	1日当処理量
日野町し尿処理場	東京都南多摩郡日野町大字新井字東養塚 211ノ３番地 9,500 平方米	投入槽 消化槽 稀釈調整槽 塩素滅菌ます槽	27ＫＬ(150石)
日野町ごみ焼却場	同上	焼却炉	7,500kg (2,000貫)

塵芥運搬のバックマスター

この処理場は昭和 33 年、34 年の継続事業で総工費 45,628,000 円であります。

○法定伝染病患者発生状況　（昭和 31 年～昭和 34 年）

病名 / 年別	腸チフス パラチフス	急性灰白髄炎	発疹チフス	赤痢	疫痢	ジフテリヤ	猩紅熱	流行性脳炎	日本脳炎	計
31	1			41	8	17	6	1	6	78
32				46	8	8	6		2	70
33				55	12	6	3	1	3	80
34		1		52	6	7	13		5	84

○予　防　状　況

結核予防

種別 / 年別	ツ反応	BCG	X線間接	X線直接
29	592	348		
30	1,459	918		
31	843	392	167	12
32	1,228	437	554	
33	783	191	1,065	69

乳幼児健康診断

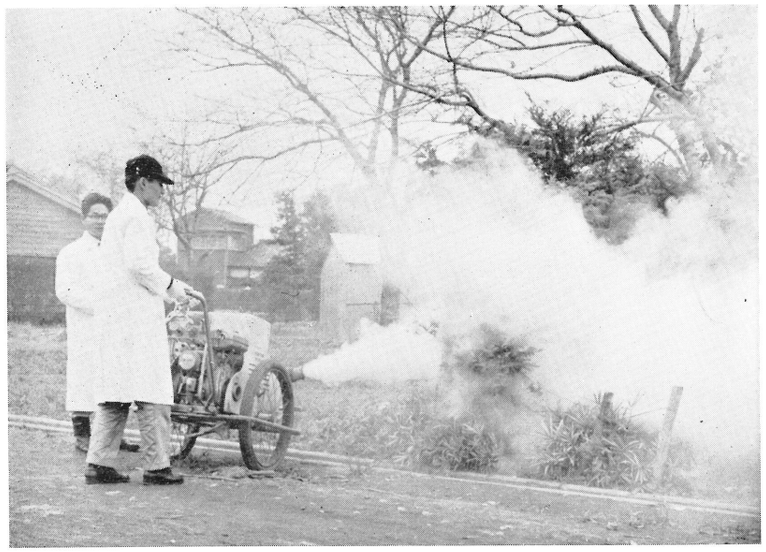
方法 / 年別	受診者数	ツ反応	BCG
29	235	235	190
30	437	437	260
31	496	496	312
32	548	548	475
33	598	598	484

○予防接種状況

種別 / 年別	百日咳	ジフテリア	腸パラ	日脳	種痘
	人	人	人	人	人
29	542	823	4,852		1,369
30	1,146	2,900	4,586		1,829
31	981	1,953	6,539	1,834	336
32	815	1,192	2,789	1,610	1,170
33	1,184	765	6,990	1,412	434

○狂犬病予防状況

種目 / 年別	登録犬	予防注射	野犬捕獲	咬傷犬	被害者	狂犬発生
29	468	395	108			
30	542	477	116	1		
31	505	449	121	2		
32	650	578	146	5		
33	790	640	86	12		



三兼機による昆虫駆除

○昆虫駆除、そ族駆除

各自治会単位に衛生支部長を置き、これが協力を得て越冬昆虫駆除を行い、特に５月から９月の間には町に衛生班を組織して、そ族、昆虫の駆除に努力しております。薬剤はＤＤＴオイル、オルソ乳剤 3,000立、そ族にはクマリン系統を各世帯を通じて配布しております。

○町営火葬場

日野町大字日野字傘松 9,950 番地にあり 492m² の敷地と 62m² の建物があります、火葬炉は重油、薪炭併用炉で2基設置してあります。この運営は一切有限会社マハヤナ協会に委託しております。

昭和 33 年度に於ける火葬場使用状況

町内		町外		計	
大人	小人	大人	小人	大人	小人
113	17	40	3	153	20

○東部共立病院組合診療所

本診療所は南多摩郡の東部町村（由木、多摩、日野）の組合組織により運営されて、法定伝染病の隔離を行務としています。

所在地　南多摩郡日野町日野 810 番地
敷地　957 坪
病棟　123 坪
ベッド　17 床

過去3カ年平均患者収容状況

実人員　90 人　　延人員　1,196 人

組合議員数　　日野町　8人　　多摩村5人

○日野町に於ける病院診療の現況

現在の日野町は厚生省で示している人口 10,000 に対する標準ベッド数（40床）にはまだ程遠いのでありますが、逐次増加されつつあります。町内にある病院を大別すると伝染病隔離病舎1、一般病院2、診療所 18、精神病院2、歯科医 10、その他4であります。

大型し尿タンク車

建　設

ロードローラー

建設事業は町の骨髄であり急激に人口の増加する当町に於いては、非常な困難が伴うものでありますが、新町五ケ年計画を樹てゝ建設事業を逐次進めております。

○一般土木係

町内全般の道路、橋梁、水路、公園等の整地設計工事監督を行っております。

○失業対策事業係

本事業は町道、農道、水路の改修が主であり、1日平均 60 名の労務者を使用しています。

○建　築　係

町に於ける建築の設計施工一切を行っており、主たる建築は学校々舎及び町営住宅であります。

○用　地　係

土地の冗収、登記、物件の補償を行っています。

一般土木（昭和 33 年度）

道路改修	700 米	940,000 円
道路舗装	8,420 平方米	3,900,000 円
側溝新設改良	700 米	980,000 円
各所道路側溝補修		500,000 円
町道敷砂利	砂利 1,500 立方米	
用排水路補修	延長 150 米	630,000 円
橋梁新設	4ケ所	11,000,000 円

○失業対策事業

昭和 33 年度

町道農道の改修	延長	4米巾	1,044 米
	工費		6,296,220 円
用排水路改修	延長	775 米	
	工費		2,260,949 円
用水路改良工事	延長	582 米	
	工費		4,687,456 円
用水路浚渫工事	延長	539 米	
	工費		404,560 円

○町　営　住　宅

30 年度　木造 20 戸（平家10坪5合１戸建）
31 年度　木造 47 戸（　〃　）
32 年度　木造 20 戸（　〃　）
33 年度　木造 40 戸（　〃　）
34 年度　木造 20 戸（　〃　）
コンクリートブロック（平家10坪6合7勺２戸建、３戸建、５戸建）
簡易耐火建築

昭和 34 年度平家建、瓦葺10坪5合20戸　工費　7,470,000 円
コンクリート、ブロック建10坪6合10戸　工費　4,150,000 円

町　営　住　宅

上　下　水　道

上　水　道

日野町は多摩川、浅川の二河川にはさまれた、いわゆるデルタ地帯で、表土の下は砂礫層になっているため地下水はきわめて豊富でありますが、未だ下水道の施設がないため、工場、民家の排水が直接滲透し、浅井戸を汚染するおそれがあります。現在、都市計画に依り工場、住宅の増加にマッチした保健、産業、火災予防等の諸点を考慮して自然的地勢を利用した流下式上水道を実施しています。

この工事は

事業主体	日野町
経営方法	公営企業
実施区域及対象人員	大字日野地域　19,500 人
給水能力	1日最大給水量 3,315 立方米
事業方法	深井戸による自然流下式
鑿　井	当町の高台標高 106 米に径 300㍉ 深 158m
着水井	内法　7.4 米×2.4 米　深 3.7 米
塩素注入室	間口 4.0 米　奥行 2.6 米
配水池	内法　長 14.8 米　巾 11.1 米　有効水深 3.5 米 有効容量 1,140 立方米２池
消火栓	地上式　7ヶ所　　地下式　62ヶ所

水　道　料　金

（1）専用給水（計量栓）

種別＼料率	基本料金１ヶ月に付 水量	基本料金１ヶ月に付 料金	超過料金１立方米につき
一般用	立方米 10	円 160	円 20
営業用	50	1,000	18
浴場営業用	300	4,500	15
臨時用	20	700	30

（2）共用給水（計量栓）

種別	基本料金１ヶ月につき 水量	料金	超過料金１立方米に付
家事用	10立方米	140円	15円

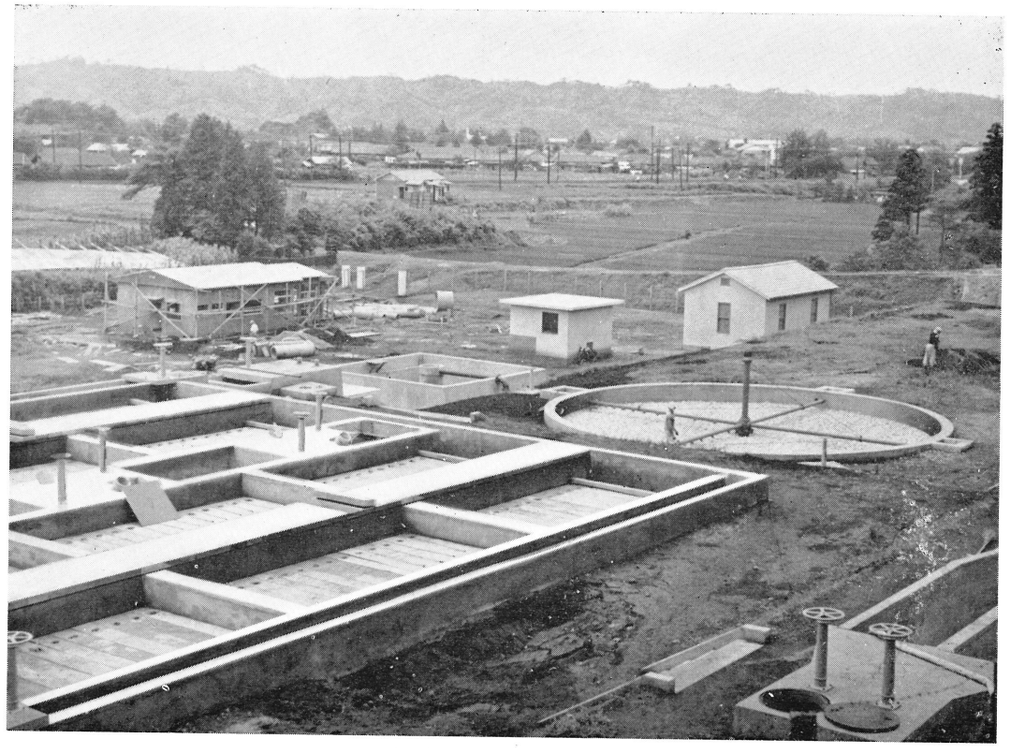
（3）量水器使用料

口径	料金	口径	料金	口径	料金
13粍	20円	30粍	50円	100粍	320円
16	25	40	70		
20	25	50	170		
25	30	70	260		

延び行く主管工事

下水道事業

日野台地に行はれた土地区画整理事業と住宅建設事業は我が国のモデルケースとして、山林原野



下　水　道　処　理　場

のこの地 40 万坪に亘って行われました。ここの生活様式はあらゆる面に於いて近代的施設を誇るものであります。対象人口は 20,000 人、1日の処理水量は最大 3,000 立方米であります。

所在地　日野町大字豊田 1,556

敷　地　3.24ha（約 24,000 坪）

施　設

沈砂地	鉄筋コンクリート	巾1M2水路式	深 1.1 M	1池
二階槽	〃	15M×30M	深4M	1基
ドージングタンク	〃	15M×3M		1基
接合井	〃	4M×2M		1基
沈澄池	〃	6M×6M	深 6.1M	2池
汚泥乾燥床	〃	10M×20M		5床
消毒槽	〃	3M×2M		1基

附帯施設　汚水返送ポンプ室　5HPモーター2台

し尿投入槽4M×15M　深1M　7.5HP　3HPモーター

事務所　25 坪　平屋モルタル　　倉庫　30 坪　平屋モルタル

下水道使用料

○水道の場合水道使用料の10分の4

○井戸及汚水

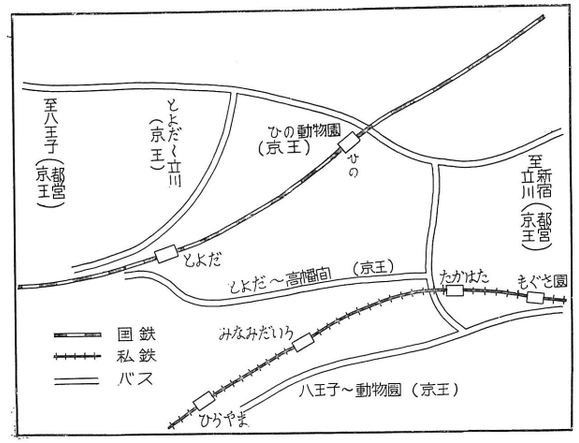
家庭汚水その他　1立方米につき　4円　　風呂汚水一個につき　20 円

し尿――水洗式大便器1ヶ 20 円　水洗式小便器1ヶ 10 円　兼用式便器1ヶ 30 円

交　通　通　信

日野町の中央を国道が都心に通じ、これに都道及町道が結集してバス路線が各駅から発着しております。又中心を中央線が走り、日野、豊田の2つの駅があり、南側を京王電鉄が四つの駅を有しております。

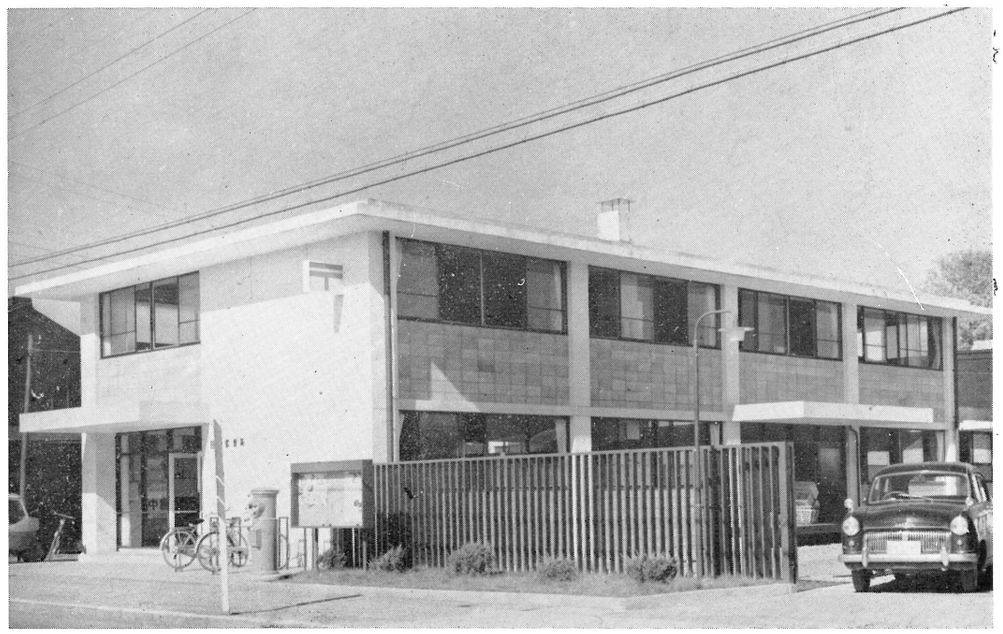
電話は現在八王子、多摩、日野の3局が導入されております。



各駅乗降客取扱状況

昭和34年中の1日平均

区分 / 駅名	乗降車人員		
	乗車	降車	計
日野	8,403	8.413	16.816
豊田	8,500	8,600	17,100
高幡不動	2.291	2.713	5.004
百草	773	812	1,585
南平	484	538	1,022
平山城址公園	1,228	939	2,162



日　野　郵　便　局

日野郵便局概要

敷地　250.38 坪

建坪　159,13 坪（局舎及倉庫）

建築様式　鉄筋コンクリート2階建

業務施設

1　区内特定局　七生郵便局

2　区内簡易局　日野台簡易局

3　郵便集配区並びに売さばき所

市内一区（二度地）　市外九区（一度地）

ポスト箇数 23 箇切手売さばき所 21 ケ所

4　電気通信事業

電話加入数 352　　市内交換台数５台　　市外交換台数２台　　市外回線 15 回線

公衆電話設備　ボツクス２ヶ所　　その他 11 ヶ所

事務取扱数

1 郵　便（昭和33年扱）

通常郵便		小包郵便	
引受	配達	引受	配達
595,085	1,384,644	4,040	25,204

2 電　報（昭和33年扱）

発信通数	着信通数
5,562	19,605

3　為替貯金（昭和32年扱）

				積立貯金集金受持数（８月１日現在）
口数	金額（千円）	口数	金額（千円）	
50,025	298,516	20,094	321,508	1,622件

4　保険年金

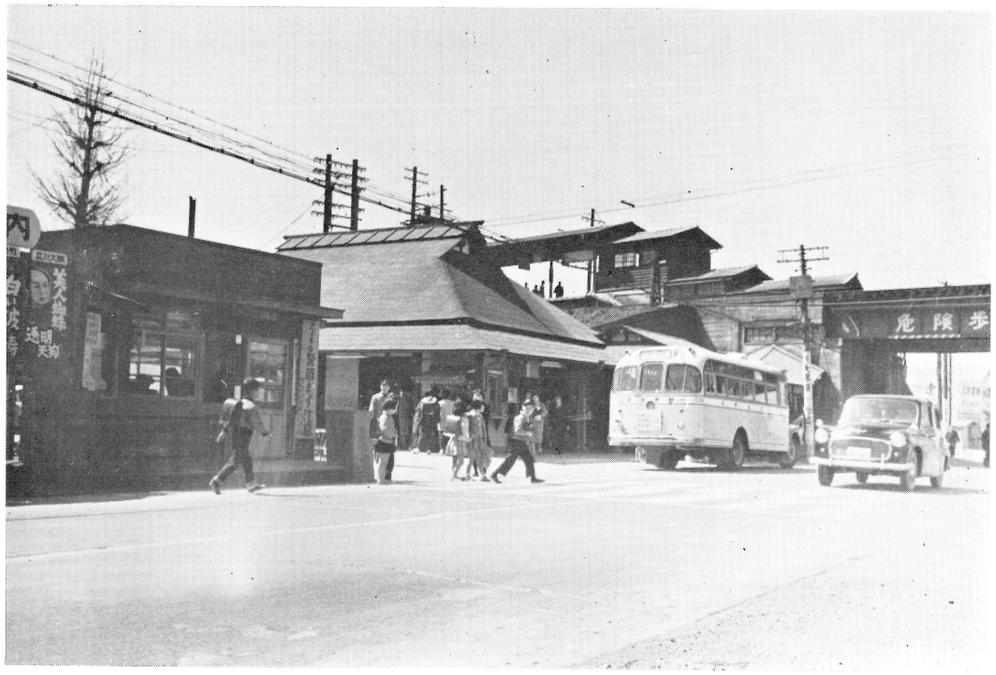
簡易保険		郵便年金	
受持件数	同金額 千円	受持件数	同金額 千円
10,783	549,085	221	1,491

保険年金積立金運用融資状況

事業別	融資先	金額 千円	備考
汚水処理建設事業費	日野町	7,000	公団住宅
危険校舎改築事業費	日野町	3,300	潤徳小学校
公営住宅建設事業費	日野町	2,500	町営住宅
計		12,800	

局別電話加入数

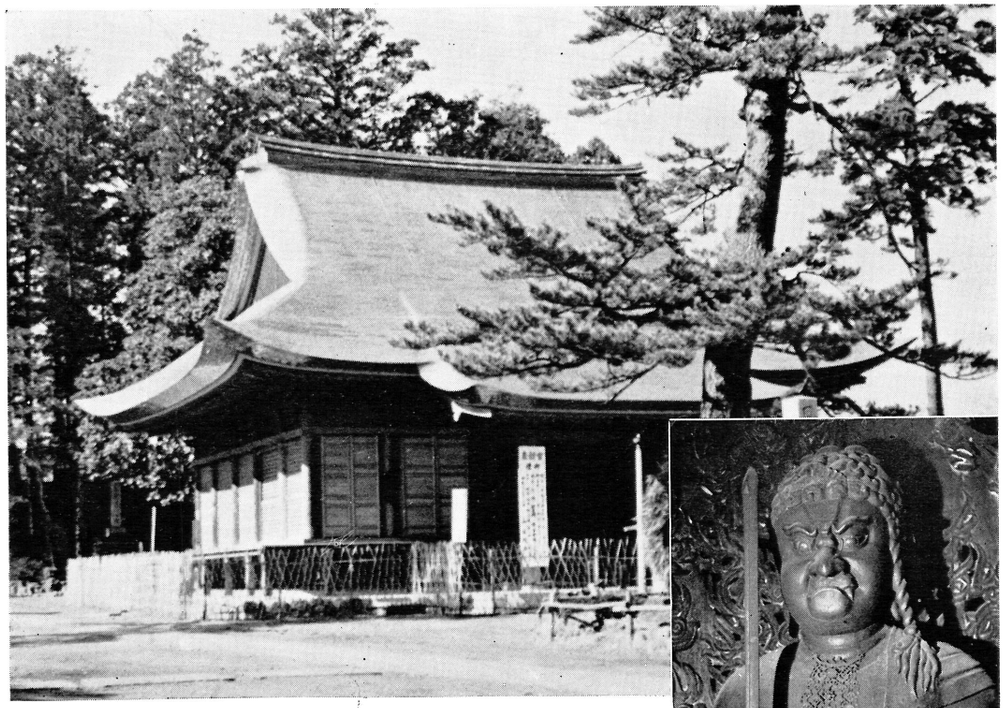
日野局	八王子局	多摩局	計
352	48	4	404



交通の中心日野駅

観　光

日野町の観光を申述べますと公園、寺院、産業、モデル住宅街であります。之等は東京都心より近く、交通が非常に便であるため、工場そして住宅地として発展し又家族連の軽い散策に或は学生児童の社会教育に当地を訪れ来る客は、四季を通じて非常に多くなりつゝあります。



高幡不動尊堂

不動明王

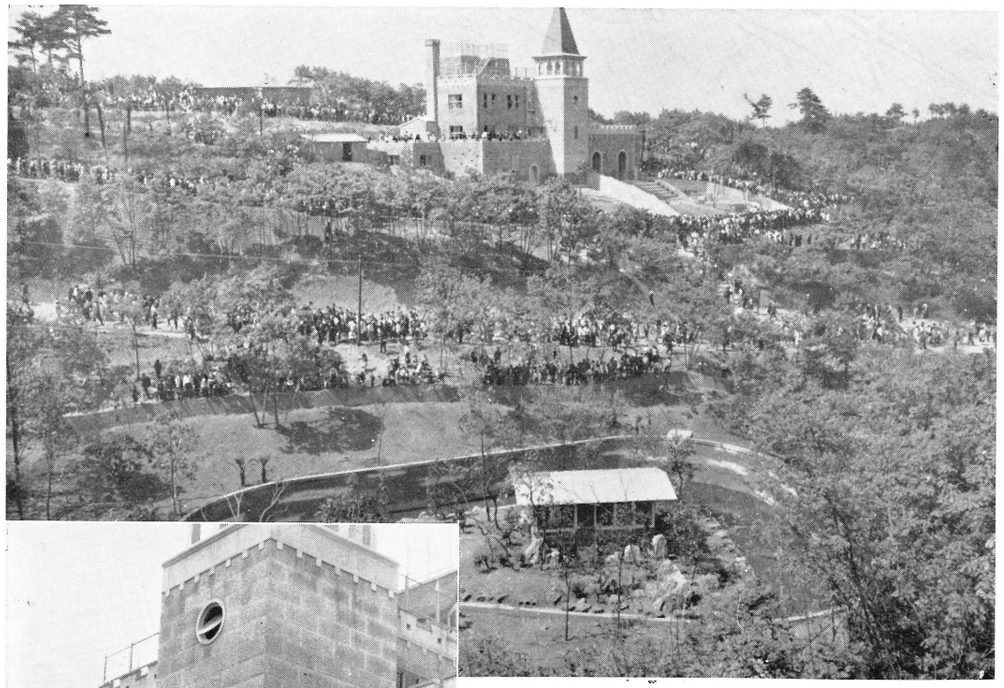
重要文化財高幡不動尊

この御堂は、平安の昔、行基菩薩が開いたと伝えられ、真言宗智山派の古刹、高幡山金剛寺所管の境内仏堂で、主尊の不動明王は弘法大師の作であります。坐像は３M余に達する巨像で、木彫としては日本一大きいもので両脇侍と共に三体の仏像が安置してあります。

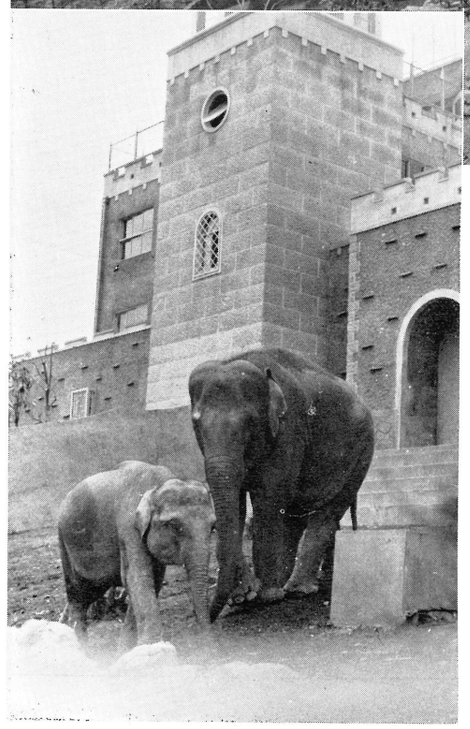
元来はすぐ横の不動ケ丘にあったものですが、建武２年８月４日の夜暴風雨のため堂屋が倒壊したので、これを麓の平地に再建のため中興大一世儀海上人が当時の平助綱及大中臣氏の女等の合力を得て工を起し、４年の歳月を費して康永元年６月 26 日竣工しました。現在の建物がそれで、約 622 年を経ております。

その建築様式が鎌倉時代の技法を多分に残しているので、昭和20年仁王門と共に、不動尊の後背

銘を含めて、国宝に指定され、昭和 31 年7月から国庫の補助を受け、文化財保護委員会の手で4ヶ年の予定で、目下解体復元中であります。復元完了の上は、素朴なそして豪快な容姿が、武蔵野に一大光彩を添えることでしょう。尚毎月の 28 日には縁日が行われ、近隣はもとより近県からも参詣の客がごったかえしております。（京王線高幡駅より 100M、中央線日野駅から京王バスで10分）殉節両雄之碑、維新当時活躍した新選組、近藤勇、土方歳三（日野の生れ）の事績を記した大碑石がこの境内に建ててあります。



レストハウスより象舎を望む



都立多摩動物公園

東京都立多摩丘陵自然公園内にあり、都心よりは交通の便もよく、約 284,000平方米の敷地は丘陵と、その林を利用して、自然に近い状態（無柵式）で全アジアの動物を蒐集し400点を数えております。園内には動物のほか水族館、資料館、人工孵化育雛場、動物病院等があり、公園には、野外劇場、あづまや、レストハウスの設備もあって、社会科の校外指導に、団体又は家族連のレクリエーションに非常に好適の場所であります。

百　草　園

都立多摩丘陵自然公園の中にあり、百草駅を下車し、百草温泉前を南に山間を登ると百草園松蓮寺址に達します。松蓮寺はもと天台宗で平安時代に建てられましたが、江戸時代享保年間に再興して、黄檗宗となりました。眺めもよく、庭園も整備したので文人墨客の来遊するものが多かったのでありますが、昭和の初めに寺は廃して現在は京王帝都の所有となって一般に開放しております。隣地の百草八幡は鎌倉時代に鶴岡八幡の分霊を迎えたものであります。

百　草　園

多摩丘陵自然公園

この丘陵は北側は比較的急傾斜で、多摩川と浅川沿いの平地に接し、南側はなだらかな丘が続いています。全般に明るい感じのする雑木林で武蔵野特有の景色が楽しめます。この尾根づたいにハイキングコースがあり、軽るい家族的な散策に好適の地であり、行く処々に自然動物公園、百草園百草温泉、高幡不動尊、平山城址公園、六国台の展望等があって、約200Mの高さを行くこのスカイウェイは、眼下に清流や文化都市、白亜の工場、空港、そして富嶽、秩父連峰と皆様の目をとりこにすることでありましょう。

多　摩　川　梨

多摩川と浅川の沿岸は肥沃な土地が広くここに年々梨園が増植されております。3月下旬から4

月にかけては真白な花が多摩の丘陵からは見事に見渡せ、れんげ、そして菜種の織りなす様は見事であります。

9月から 10 月には甘い甘い多摩川梨が家族連れの方々によって、一日楽しい梨狩りとしてにぎやかであります。

平山城址公園

都立多摩丘陵自然公園のハイキングコース中最も展望のよい所にあり、蝶類、昆虫類、鳥類の資料館、猿のトーテンポール、レストハウス、野外ステージ、遊技場、バレー、バトミントン等の運動

六国台の展望台より眺める

場が完備し、尾根には六国台の展望台があって、眼下に浅川の清流、その両岸にじゅうたんを敷いたかの如き田園が展け、その彼方に真白な日本の先端を行くニュータウン街と、大工場があって、遠くには墨画の如く富嶽、秩父、奥多摩、丹沢の山々が望める最適の地であります。

ここは源平盛衰の頃、源氏方の豪族平山氏が城を構えた地で、多くの史蹟があり又平山季重神社もあります。

多摩川梨

多摩平と工場を空から望む

多摩平「ニュータウン」

広ぼう 40 万坪の日野台地に生れた「多摩平」は西に富士の麗峰を望み、眼下に多摩川の清流をめぐらした住宅地で、昭和 30 年度から 34 年度の4ヶ年に亘って開発したものであります。我が国最初の大規模なニュータウンは人口 20,000 人を収容するもので近代的最高の施設を備えた住宅であり、団地内は浄水場、汚水処理場、商店街、公園、学校等綜合的に計画されております。

区画整理された街路

総事業費28億5千万円

住宅建設費　21億円

区画整理、上下水道建設費　2億1千万円

用地売収費　2億4千万円

○官公署及公共団体

名称	所在地	電話
日野町役場	日野町日野2,803番地	日野4.44.222.278
警視庁日野警察署	日野町大字日野347番地	日野100※132
日野町消防署	日野町大字日野2,802番地	日野119
日野町郵便局	日野町大字日野2,617番地	日野1
日野駅	日野町大字日野2,782番地	日野103
豊田駅	日野町大字豊田1705番地	八王子20406
農林省蚕糸試験場日野桑園	日野町大字日野1,825番地	日野※30.247
農林省淡水区水産研究所	日野町大字宮399番地	日野208
東京食糧事務所日野出張所	日野町大字日野2,815番地	日野211
日野町農業協同組合	日野町大字日野2,835番地	日野19
都立自然動物公園	日野町大字程久保300番地	日野221.400.401
都立七生児童学園	日野町大字程久保843番地	日野49
南多摩東部共立病院組合診療所	日野町大字川辺堀之内810番地	日野343
日野町役場七生支所	日野町大字高幡68番地	日野31
日野町役場日野台出張所	日野町大字日野7,221番地	日野26
日野町役場豊田出張所	日野町大字豊田1,049番地	日野220
日野町役場平山出張所	日野町大字平山2,897番地	
日野町国民健康保険直営診療所	日野町大字南平1,340番地	日野5
日野用水改良区	日野町大字日野（役場産業課内）	日野4.44.222
日野観光協会	日野町大字日野2,803（役場内）	日野19番
養蚕農業協同組合	日野町大字日野2,835（日野農協内）	日野73番
日野町立第一小学校	日野町大字日野2,800番地	日野70番
〃 第二小学校	日野町大字豊田218番地	日野101番
〃 第三小学校	日野町大字日野5,288番地	日野38番
〃 第四小学校	日野町大字石田430番地	日野38番
〃 第五小学校	日野町大字川辺堀之内719番地	日野447番
日野町立潤徳小学校	日野町大字高幡402番地	日野59.409
日野町立潤徳小学校分校	日野町大字落川948番地	
日野町立平山小学校	日野町大字平山599番地	八王子20—493番
日野町立第一中学校	日野町大字日野2,614番地	日野9番
日野町立第二中学校	日野町大字上田高倉571番地	日野56番
日野町立七生中学校	日野町大字豊田1,944番地	日野174番
日野町七生農業協同組合	日野町大字高幡648番地	日野42番

昭和 35 年度一般会計予算

款	金額	比率	款	金額	比率
1.町税	190,021,300	66.14	1.議会費	9,922,252	3.45
2.地方交付税	2,000,000	5.70	2.役場費	62,058,750	21.60
3.公営企業及び財産収入	15,213,370	5.30	3.消防費	15,566,374	5.42
4.使用料及び手数料	12,275,432	4.27	4.土木費	52,463,000	18.26
5.分担金及び負担金	744.960	0.26	5.教育費	81,738,630	28.45
6.国庫支出金	22,181,900	7.72	6.社会及び労働施設費	11,263,660	3.92
7.都支出金	19,369,750	6.74	7.保健衛生費	17,483,084	6.09
8.寄附金	300	0	8.産業経済費	7,773,192	2.71
9.繰入金	100	0	9.財産費	136,877	0.05
10.繰越金	5,000,000	1.74	10.統計調査費	553,500	0.19
11.雑収入	530,000	0.20	11.選挙費	552,400	0.19
12.町債	13,900,000	6.93	12.公債費	2,044,070	0.71
			13.諸支出金	25,509,757	7.88
			14.予備費	232,165	0.08
歳入合計	287,297,712		歳出合計	287,297,712	

昭和 35 年度日野町国民健康保険病院新築工事特別会計予算

歳入		歳出	
款	金額	款	金額
国庫支出金	7,958,900	病院建設費	32,742,930
都支出金	7,958,900	予備費	200,000
町債	10,000,000		
一般会計繰入金	7,023,130		
雑収入	200		
	32,942,930		32,942,930

昭和 35 年度日野町国民健康保険特別会計直診勘定歳入歳出予算

歳入		歳出	
款	金額	款	金額
診療報酬	4,815,000	施設費	5,759,060
一部負担金	750,000	給食費	145,000
使用料及び手数料	83,000	諸出出金	43,560
繰越金	1,000	公債費	431,370
雑収入	291,000	予備費	61,010
繰入金	500,000		
歳入合計	6,440,000	歳出合計	6,440,000

昭和 35 年度日野町国民健康保険事業勘定特別会計歳入歳出予算

収入		歳出	
款	予算額	款	予算額
保険税	8,031,200	役場費	2,585,840
一部負担金	1,00	保険給付費	12,076,900
財産収入		保健施設費	999,840
使用料及び手数料	2,00	公債費	15,000
国庫支出金	5,501,900	趣旨普及費	101,000
都支出金	405900	諸支出金	239,300
繰入金	2,000,000	予備費	78,120
繰越金	150,000		
雑収入	4,000		
歳入合計	16,086,000	歳出合計	16,096,000

昭和 35 年度日野町公益質屋特別会計歳入歳出予算

歳入		歳出	
款	金額	款	金額
質屋収入	1,514,000	事務費	466,058
繰越金	364,000	事業費	1,300,000
雑収入	20,000	交付金	300
		公債費	126,000
		予備費	5,442
歳入合計	1,898,000	歳出合計	1,898,000

昭和 35 年度日野町水道事業会計予算

第1款 事業収益	8,590,782 円	┐
第1項 営業収益	1,953,000 円	├ 収益的収入
第2項 営業外収益	6,637,782 円	┘
第1款 事業費	8,590,782 円	┐
第1項 営業費用	6,696,000 円	├ 収益的支出
第2項 営業外費用	1,896,000 円	┘
第1款 資本的収入	27,878,450 円	┐
第1項 企業債	27,800,000 円	├ 資本的収入
第2項 他会計からの繰入金	78,450 円	┘
第1款 資本的支出	27,878,450 円	┐
第1項 建設改良費	17,800,000 円	├ 資本的支出
第2項 総係費	78,450 円	┘

昭和 35 年度日野町下水道事業会計予

第1款 事業収益	4,758,000 円	┐
第1項 営業収益	4,711,000 円	├ 収益的収入
第2項 営業外収益	47,000 円	┘
第1款 事業費	4,758,000 円	┐
第1項 営業費用	3,724,423 円	├ 収益的支出
第2項 営業外費用	1,033,577 円	┘
第1款 資本的収入	6,232,172 円	┐
第1項 企業債	4,000,000 円	│
第2項 補助金	2,000,000 円	│
第3項 他会計からの繰入金	209,000 円	├ 資本的収入
第4項 繰越金	20,000 円	│
第5項 雑収入	3,172 円	┘
第1款 資本的支出	6,232,172 円	

M E M O

M E M O

M E M O

京都
摩郡 日野町全図

縮尺 1/20,000.

0 1 2米千

N

東京都 南多摩郡 日野町全図

縮尺 1/20,000.

0 1 2粁

昭和三十五年四月 日野町役場調整

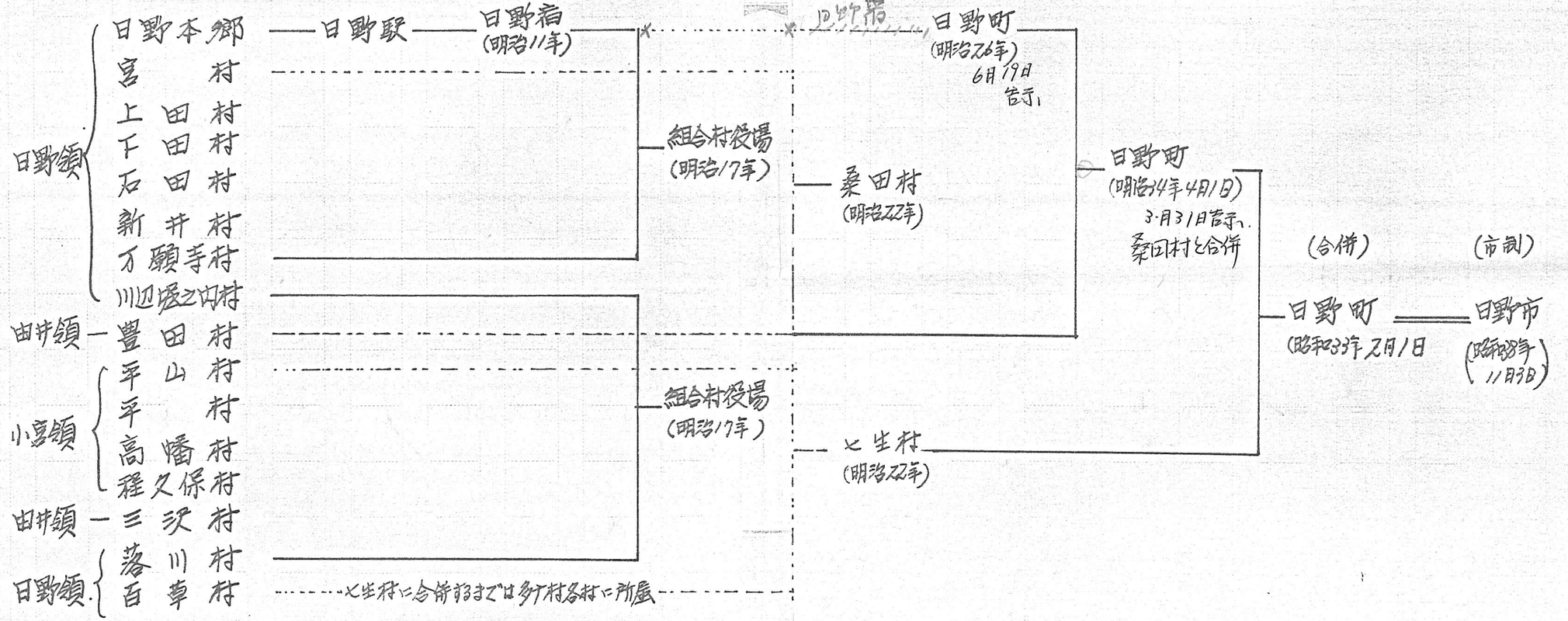
凡例

- 都道府県界
- 郡市町村界
- 国鉄
- 小田急
- 支庁・駐在所
- 警察署及び交番
- 消防署及び防災倉庫
- 農学校
- 病院
- 都営住宅
- 工場
- 変電所
- 神社
- 墓地
- 火葬場
- 塔
- 日本住宅公団日野宅地開発区域

昭島市
立川市
八王子市
北多摩郡 国立町
府中市
多摩村
由木村

日野 矢川 神明上 谷戸上 矢頭 谷戸 大坂上 東大久保 庄安開 梵天山 富士塚 一里塚 東電変電所 日野テニスコート 日野工場 日野新田 東光寺西 東光寺止 東光寺東 七ツ塚 新坂下 新坂西 新坂上 北御越前 南御越前 姥久保 四ツ谷上 四ツ谷下 上屋敷 西仲田 東仲田 北原 宿裏 宮子 西常安寺 今朝ヶ島 下河原 北広間地 南広間地 上台 中万願寺 上万願寺 万願寺下 下万願寺 塚越 欠差 石原 源平島田 万願寺 北川原 下家住田 東浦 蘭沼 東耕地 元木 日下 万打 願寺 尻下 三角 西耕地 新井 新井橋 東石田 南河原 東養塚 向島上 向島 中島 別旅 高幡 高幡橋 下向河原 上向河原 牛渕 小高田 道場 築地 豊田 堀之内 上町家 松葉 前通 前村 駒形前 下田 吹上 宮根 上黒川 下黒川 中央線 国道一号線 都道19号線 都道173号線 京王線 長山 鍛馬場 高倉原 東大助 西大助 下大和田 中込 堀込 八ヶ下 間門 大芝原 川原 久保 天崎 平山橋 宮下 平山 平山城址公園 都立自然動物園 きのこ池 谷戸 南平 程久保 三沢 上三沢 中三沢 下三沢 落川 上落川 下落川 田中 百草園 百草 小峯 倉沢 農林省林業水産試験所 高徳寺 高徳小 高徳 日野一小 日野二小 日野三小 日野四小 日野一中 日野二中 日野三中 日野四中 日野警察署 日野郵便局 日野テニスコート 日野工場 日野二工場 日野三工場 日野四工場 日野五工場 日野六工場 日野七工場 日野八工場 日野九工場 日野十工場 日野十一工場 日野十二工場 日野十三工場 日野十四工場 日野十五工場 日野十六工場 日野十七工場 日野十八工場 日野十九工場 日野二十工場 日野二十一工場 日野二十二工場 日野二十三工場 日野二十四工場 日野二十五工場 日野二十六工場 日野二十七工場 日野二十八工場 日野二十九工場 日野三十工場 日野三十一工場 日野三十二工場 日野三十三工場 日野三十四工場 日野三十五工場 日野三十六工場 日野三十七工場 日野三十八工場 日野三十九工場 日野四十工場 日野四十一工場 日野四十二工場 日野四十三工場 日野四十四工場 日野四十五工場 日野四十六工場 日野四十七工場 日野四十八工場 日野四十九工場 日野五十工場 日野五十一工場 日野五十二工場 日野五十三工場 日野五十四工場 日野五十五工場 日野五十六工場 日野五十七工場 日野五十八工場 日野五十九工場 日野六十工場 日野六十一工場 日野六十二工場 日野六十三工場 日野六十四工場 日野六十五工場 日野六十六工場 日野六十七工場 日野六十八工場 日野六十九工場 日野七十工場 日野七十一工場 日野七十二工場 日野七十三工場 日野七十四工場 日野七十五工場 日野七十六工場 日野七十七工場 日野七十八工場 日野七十九工場 日野八十工場 日野八十一工場 日野八十二工場 日野八十三工場 日野八十四工場 日野八十五工場 日野八十六工場 日野八十七工場 日野八十八工場 日野八十九工場 日野九十工場 日野九十一工場 日野九十二工場 日野九十三工場 日野九十四工場 日野九十五工場 日野九十六工場 日野九十七工場 日野九十八工場 日野九十九工場 日野百工場

日野市の沿革図説　（明治から現代まで）



沿革史

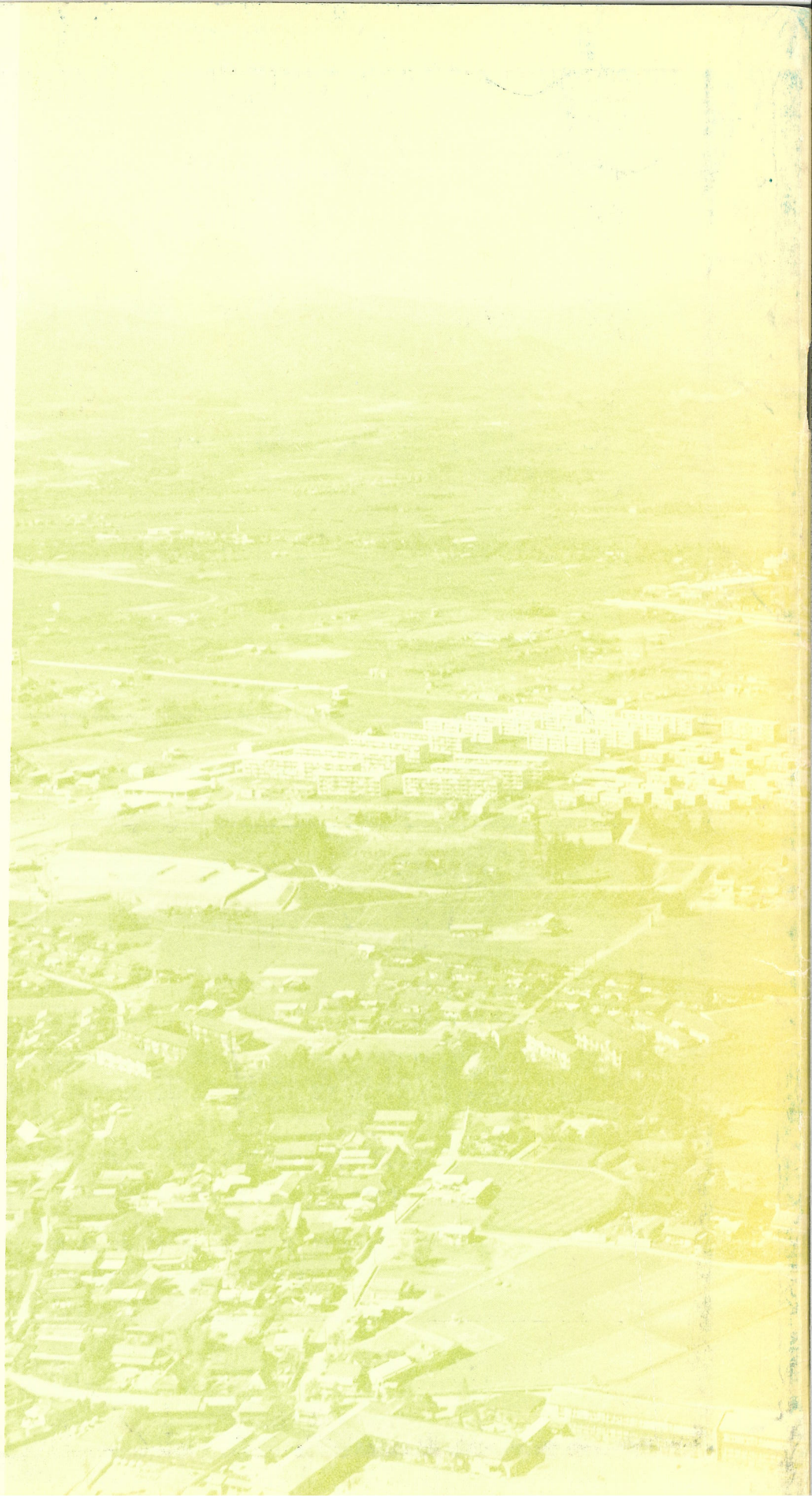
明治 元年(1868年) 4月府藩県に分け知府事 知県事 詰候を置く 品川県 韮山県に属し、神奈川県に編入
4年(1871) 廃藩置県、戸籍法が施行される。大小区制となる。
5年(1872) 始めて戸籍が出来る（じん申戸籍）
6年(1873) 区番組制施行（神奈川県 20区 185番組を編成）
7年(1874) 再び大小区制となる（神奈川県 23大区 208小区を編成、明治7年）
11年(1878) 7月大小区制廃止、郡区町村編成法制定により多摩郡となる（郡役所）
明治12年(1879) 多摩郡を東、北、南、西の4多摩郡に分割。（日野市は南多摩郡の管轄に属す）
17年(1884) 組合村役場設置、
22年(1889) 4月1日市町村制の施行（従来の各宿村は大字となる）
26年(1893) 三多摩が東京府に移管される
昭和18年(1943) 東京府が東京都となる

日野町勢要覧

昭和34年度版

昭和 34 年 11 月　印　刷
昭和 34 年 12 月　発　行

編集兼
発行所　日野町役場企画課

東京都南多摩郡日野町大字日野 2900 番地
TEL 日野 4・44・222・278

印刷所　日之出産業印刷部
東京都新宿区百人町 2 の199 番地